

幸教総収第161号  
令和5年7月11日

幸手市長 木村 純夫 様

幸手市教育委員会  
教育長 山西 実

#### 市内小中学校の今後の在り方について（報告）

令和3年8月20日付け幸政発第41号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり幸手市立小・中学校適正規模・適正配置等に関する基本方針を策定しましたので、下記のとおり意見を附して報告します。

なお、公立の幼児教育のあり方についても協議しましたが、少子化等現在の状況を総合的に勘案し、幸手市の幼児教育は私立に委ねることが望ましいとの結論に至ったことを申し添えます。

#### 記

##### 1 附帯意見

学校再編を進めるにあたっては、学校設置者の責務として、次の事項に御配慮をお願いしたい。

- ・より良い教育環境を子どもたちに提供できるよう、学校再編を早期に実現すること。
- ・今後も新しい魅力ある幸手市の学校教育を実現するための予算措置を講ずること。
- ・学校再編後も継続して使用する学校施設を整備するために、十分な予算措置を講ずること。
- ・学校再編を円滑に実現するために、十分な人員配置を行うなど、適切な組織体制を構築すること。
- ・通学距離が長くなる場合は、スクールバスを必ず運行すること。
- ・地域住民との合意が図られるよう、丁寧な説明を実施すること。



幸手市立小・中学校適正規模・  
適正配置等に関する基本方針

令和5年7月  
幸手市教育委員会

## 目 次

1	はじめに	1
2	市立小・中学校の現状	2
	(1) 児童生徒数の推移	2
	(2) 児童生徒数の将来推計	2
	(3) 小・中学校の規模	2
3	学校の小規模化による影響	4
4	適正規模・適正配置の望ましい目安	5
	(1) 適正規模の考え方	5
	(2) 適正配置の考え方	5
5	適正規模・適正配置の推進の方策	7
	(1) 学校再編について	7
	(2) 通学区域の見直しについて	7
6	学校再編の具体的な枠組み	8

### 参考資料

- ・学校の在り方等に関するアンケート調査報告書

## 1 はじめに

本市では、「第6次幸手市総合振興計画」において「みんなでつくる 幸せを手にするまち 幸手」の実現を目指し、子育て・教育の視点から「子どもがいきいきと育ち、子育てしやすいまち」を施策の大綱に定めています。

このような中、本市における児童生徒数は、昭和57年度の9,687人をピークに、急激な少子化の影響により、令和5年5月1日現在で3,164人と約3分の1まで減少しており、小・中学校の小規模化が進んでいます。今後の推計においても、更なる児童生徒数の減少は避けられず、適正な学校規模の維持はますます困難になることが予想されます。しかしながら、全国的に同様の課題を抱えており、少子化や人口減の問題を解消するための努力は望まれるものの、その条件の中で検討せざるを得ないとも言えます。

小・中学校での教育は、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合うなど総合的な人間性の成長を促すことが重要になります。そのような教育を行うためには、一定規模の集団が確保されることや、バランスのとれた教職員集団が配置されることが望ましいと考えられます。

また、小・中学校は、教育の場というだけでなく、地域の方にとっては様々な交流の拠点であり、緊急時の避難場所でもあるので、そういった視点での施設の維持は必要ですが、それによって子どもたちが受けられる教育に差や制限が生じることは避けなければなりません。

このような中であって、それぞれの地域の実情に応じて、教育的な視点から少子化に対応した魅力ある学校づくりのための方策を継続的に検討・実施していくことが求められていることから、子どもたちがいきいきと育つ、より良い教育環境づくりを目指して、「幸手市小・中学校適正規模・適正配置等に関する基本方針」を策定します。

## 2 市立小・中学校の現状

### (1) 児童生徒数の推移

本市における児童生徒数は、昭和 57 年度の 9,687 人をピークとして、年々減少しています。

令和 5 年 5 月 1 日では 3,164 人で、ピーク時に比べて約 3 分の 1 程度に減少しています。

	昭和 57 年度	平成 12 年度	平成 22 年度	令和 3 年度	令和 5 年度
児童生徒数	9,687 人	5,256 人	3,784 人	3,289 人	3,164 人
昭和 57 年度比	—	-4,431 人	-5,903 人	-6,398 人	-6,523 人

### (2) 児童生徒数の将来推計

本市の人口は、平成 7 年の 58,172 人をピークとして年々減少しています。今後においても、人口減少及び少子化の影響により年少人口は減少することが予想されます。

	令和 2 年	令和 4 年	令和 7 年	令和 12 年	令和 17 年
人口 (年少人口割合)	50,656 人	49,617 人	47,913 人	45,015 人	42,012 人
			9.6%	8.7%	8.4%
小学校児童数 (小学校児童割合)	2,234 人	2,132 人	1,840 人	1,567 人	1,412 人
			3.84%	3.48%	3.36%
中学校生徒数 (中学校生徒割合)	1,077 人	1,139 人	920 人	783 人	706 人
			1.92%	1.74%	1.68%
児童生徒数合計	3,311 人	3,271 人	2,760 人	2,350 人	2,117 人

※令和 7 年以降の人口は、「第 2 期幸手市ひと・まち・しごと創生総合戦略」の将来人口推計から引用

※令和 7 年以降の児童生徒数は、将来人口推計の年少人口割合（0～14 歳）を 15 で除したものに、小学校は 6、中学校は 3 を乗じた割合により算出

### (3) 小・中学校の規模

各小学校別の普通学級数は、10 年前に比べて、行幸小学校と長倉小学校以外は同数もしくは減少しています。

また、小学校 9 校のうち 4 校は、クラス替えができない学年単学級になっています。令和 10 年度には、4 校で複式学級になると予想され、そのうち 3 校で複式学級が複数編制されることが予想されます。

	平成 25 年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 10 年度
幸手小学校	13(11+2)	13(11+2)	13(11+2)	9
権現堂川小学校	6(6+0)	7(6+1)	8(6+2)	5
上高野小学校	12(12+0)	14(12+2)	14(12+2)	11
吉田小学校	6(6+0)	8(6+2)	6(5+1)	4
八代小学校	6(6+0)	7(6+1)	8(6+2)	4
行幸小学校	7(7+0)	12(10+2)	14(11+3)	8
長倉小学校	17(14+3)	19(17+2)	19(15+4)	12
さかえ小学校	8(8+0)	8(6+2)	8(6+2)	4
さくら小学校	19(18+1)	20(17+3)	16(12+3)	12
合計	94(88+6)	108(91+17)	105(84+21)	69

※括弧内の数字は、普通学級数＋特別支援学級数です。

※令和 10 年度は、特別支援学級の数が見込めないため普通学級の数です。

※斜字は、複式学級となることを示しています。

各中学校別の普通学級数は、10 年前に比べて、西中学校以外の学校で減少しています。

特に東中学校では単学級の学年があり、令和 10 年度には全ての学年で単学級になることが予想されます。

	平成 25 年度	平成 30 年度	令和 5 年度	令和 10 年度
幸手中学校	17(15+2)	16(14+2)	15(12+3)	10
東中学校	6(6+0)	5(4+1)	7(5+2)	3
西中学校	15(13+2)	17(14+3)	18(16+2)	14
合計	38(34+4)	38(32+6)	40(33+7)	27

※括弧内の数字は、普通学級数＋特別支援学級数です。

※令和 10 年度は、特別支援学級の数が見込めないため普通学級の数です。

### 3 学校の小規模化による影響

学校の小規模化によるメリット・デメリットは、一般的に次のようなものが挙げられます。

#### 【メリット】

- ①ひとりひとりの学習状況を把握でき、きめ細やかな指導を行いやすい
- ②意見や感想を発表できる機会が多い
- ③ひとりひとりがリーダーを務める機会が多い
- ④運動場や体育館、特別教室、機器などが余裕をもって使える
- ⑤教材・教具などが比較的少ない支出で全員分の整備が可能
- ⑥地域の協力が得やすく、保護者や地域と連携した教育活動ができる

#### 【デメリット】

- ①自己主張や他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい
- ②クラス替えができないなど、児童生徒の人間関係が固定化されやすい
- ③多様な考え方や表現の仕方に触れる機会が少ない
- ④切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ⑤体育科や音楽科、運動会などの集団活動の教育効果が下がる
- ⑥修学旅行などの宿泊学習の実施が困難になる
- ⑦クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑧男女比の偏りが生じやすい
- ⑨卒業アルバムなど全体で一つのものを作成する際に、児童生徒や保護者の負担が重くなる
- ⑩集まる給食費の総額が少なく、市内共通メニューの提供が困難になる
- ⑪教職員一人当たりの校務や行事に関わる負担が重くなる

これからの時代は、一方的な授業だけでなく、児童生徒が主体的に学ぶ活動など、協働的な学習を通じて意欲や好奇心を引き出す教育が求められています。しかしながら、小規模化が進行すると、上記のように集団活動や協働的な学習に制約が生じることから、教育活動を充実させることが困難になるおそれがあります。

今後の適正規模・適正配置の検討は、これらの教育上のデメリットを勘案した上で、総合的な判断を行うことが必要となってきます。

## 4 適正規模・適正配置の望ましい目安

### (1) 適正規模の考え方

令和4年9月に実施した「学校の在り方に関するアンケート」では、小学校は1学年2学級（36人～70人以下）～3学級（71人～105人）を望む声が、中学校は1学年3学級（81人～120人）～5学級（161人～200人）を望む声が、保護者から多く見られました。また、児童生徒からは、小・中学校ともに各学校の現状の学級数と概ね同数を望む声が多く見られました。

以上を踏まえて望ましい学校規模を考えた場合、小学校は、多様な人間関係を築くことができるよう全学年でクラス替えを可能とし、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編制したり、同学年に複数の教員を配置したりするためには、1学年に2学級以上あることが望ましいと考えられます。

中学校についても、全学年でクラス替えを可能とするなど、小学校と同様の考え方に加え、様々な学習活動や行事の活性化を促し、教科担任制の充実と学習集団の弾力的な編制等の教員を確保することが可能となるよう、1学年に3学級以上あることが望ましいと考えられます。

校種	望ましい学校規模の目安
小学校	概ね12学級以上
中学校	概ね9学級以上

なお、上記の規模に満たない場合であっても、教職員配置等の利点も含め、具体的に効果が見込めることから、相当数の児童生徒数が確保されることが望ましいと考えられます。

### (2) 適正配置の考え方

次に、適正配置を考えた場合、児童生徒の通学条件を考慮する必要があります。児童生徒の通学距離（通学時間）が延びると、教育条件を不利にする可能性があることから、負担面や安全面に十分配慮し、地域の実態を踏まえた適切な通学条件や通学手段を確保することが重要になります。

「学校の在り方に関するアンケート」では、小学校は概ね1km（約20分）以内、中学校は1.5km（約25分）～2km（約30分）以内を望む声が、保護者から多く見られました。

通学距離が短い方が望ましいという声が多いのは、保護者の希望としては理解できるところですが、全ての児童生徒の通学距離をその範囲内に抑えることは現実的には困難です。保護者が望む通学距離を超えてしまう場合の通学方法については、徒歩を望む声がある一方、小学校であっても自転車による通学、またはスクールバスの配置を望む声が見られました。中学校については、概ね自転車による通学方法を望む声が多く見られました。

一般的には、国の基準を基に、小学校で4 km以内、中学校で6 km以内としていることが多く、およその目安としては引き続き妥当であると考えられます。

校種	望ましい通学距離の目安
小学校	概ね4 km以内
中学校	概ね6 km以内

ただし、「学校の在り方に関するアンケート」の結果から見えるように、児童生徒の負担の実態や地域の実情を踏まえて、自転車やスクールバス等の多様な通学手段の活用・導入を検討するとともに、徒歩や自転車での通学距離が長くなる場合には、犯罪や交通事故を防止するために、通学路の安全確保に関する取組を徹底する必要があります。

## 5 適正規模・適正配置の推進の方策

### (1) 学校再編について

学校は、児童生徒の教育のために設置されている施設であり、学校再編の適否を検討するにあたっては、児童生徒にとってより良い教育環境の実現、持続可能な教育の推進という視点に立って、本市として適正な規模となるよう検討を進めます。

また、学校は地域のコミュニティの核としての性格を有しており、学校と地域社会とのつながりや果たしてきた役割などに配慮し、学校規模や通学距離のみの判断ではなく、総合的な教育条件の向上に資する形を目指します。

その際は、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子どもの保護者の声を重視しつつ、地域住民や地域の学校支援組織と教育上の課題も含めた将来像を共有し、十分な理解や協力を得ながら進めていくことが重要です。

### (2) 通学区域の見直しについて

一方で、様々な事情により小規模校のまま存続させることが必要と判断する場合があります。

例えば、更なる少子化の進展や地域の産業構造の変化等により児童生徒数が減少すると見込まれるなど、安定的に通学可能な範囲で更なる学校再編を進めることが難しい場合や、学校を当該地域の防災拠点としていたり、地域コミュニティの存続や発展の中核的な施設と位置付け、地域を挙げてその充実を図ることを希望する場合は考えられます。

このように、学校配置をそのままとする必要が生じた場合であっても、教育の機会均等とその水準の維持向上を図るためには、通学区域の見直しにより相当数の児童生徒数を確保するなど、小規模校のデメリットを最小化することを目指すものとします。

## 6 学校再編の具体的な枠組み

少子化の影響から、児童生徒数が減少している学校が多く、全学年が単学級の小学校が令和5年度現在で4校（権現堂川小学校、吉田小学校、八代小学校、さかえ小学校）あり、今後の転出等によっては、この4校すべてで複式学級編制の可能性が考えられます。

また、中学校では、令和5年度現在で9学級以下の学校は1校（東中学校）あり、学区内の小学校（権現堂川小学校、吉田小学校、八代小学校）においても児童数の減少が見込まれます。

これまで述べてきたように、学校の極端な小規模化は、児童生徒への影響、学校運営上の課題が大きく、小規模校のメリットを生かしつつ、デメリットを補うよう努力をして教育活動を行ってきましたが、それにも限度があると考えられます。

したがって、一定の児童生徒数を確保するために、学校再編（義務教育学校の設置及び通学区域の一部見直しを含む）の検討を行う必要があります。児童生徒数を確保するため、4で掲げる適正規模・適正配置の望ましい目安を基に、以下の学校再編について検討してきました。

「学校の在り方に関するアンケート」の結果でも、小規模校が多い東中学校区で早急な再編の検討を望む声が多い傾向となりました。

なお、通学距離と安全性、防災拠点や地域のコミュニティステーションとしての役割を重視して、現在の学校配置を存続させてほしいとの意見もありましたが、小規模校で培ったものを取り入れながら、学校再編を進めることが望まれます。

また、学校再編により統合した学校へ就学する児童の通学の安全、及び遠距離通学の負担の軽減を図るためにもスクールバスの運行は必須と考えます。

### 【小学校の場合】

#### ① 権現堂川小学校、吉田小学校、八代小学校、さかえ小学校

1学年の児童数が極端に少ないことから、次の再編方針のとおり速やかに学校再編を進めることが重要です。

#### 《再編方針1》

東中学校区の小学校3校（権現堂川小学校、吉田小学校、八代小学校）と中学校1校（東中学校）を一体的にとらえて、義務教育学校を現在の東中学校に開校します。

なお、義務教育学校開校にあたっては、次の事項に配慮します。

- ・義務教育学校を速やかに開校するとともに、将来的に魅力ある施設づくりに努めます。
- ・児童生徒や保護者の希望により、市内全域から入学できることとします。

《再編方針 2》

さかえ小学校を上高野小学校に統合します。

なお、統合にあたっては、次の事項に配慮します。

- ・当面の間は幸手中学校と西中学校のいずれに進学するか選択できるような弾力的な扱いにします。
- ・また、さかえ小学校に関係する弾力的な扱いについても継続します。

②幸手小学校、行幸小学校

上記の4校を除き、将来的に6学級から11学級となることを見込まれる2校については、現時点では検討基準には該当しませんが、児童数の動向を注視しつつ、状況に応じて学校再編の適否について検討するものとしします。

【中学校の場合】

①東中学校

望ましい学校規模の目安に照らせば、9学級以上となることが望ましいですが、検討した結果、上記《再編方針 1》のような方策を講じることで小規模校であることの課題を解消・緩和し、魅力ある学校づくりに資するものとしします。



学校の在り方に関する  
アンケート調査報告書

令和5年3月  
幸手市教育委員会

## < 目 次 >

### 第1章 調査の概要

1	目的	1
2	対象者	1
3	調査方法	1
4	調査期間	1
5	調査項目と対象者	1
6	回収結果	2
7	報告書の見方・留意点	2

### 第2章 調査の結果

1	保護者等	
(1)	望ましい小・中学校1学年当たりの学級数(人数)とその理由	3
(2)	小・中学生の片道通学距離の許容範囲と望ましい通学方法	9
(3)	市内小・中学校全体の統廃合の賛否	13
(4)	学校に求めるもの(ハード面・ソフト面)	14
(5)	小中一貫教育への期待度と望むこと	18
(6)	今後の幼児教育の在り方について	20
2	児童・生徒	
(1)	望ましい小・中学校1学年当たりの学級数(人数)とその理由	21
(2)	学校に求めるもの(ハード面・ソフト面)	23
3	小規模校区のアンケート結果	
(1)	望ましい小・中学校1学年当たりの学級数(人数)	24
(2)	市内小・中学校全体の統廃合の賛否	28

### その他

幸手市内の小・中学校の位置図

## 第1章 調査の概要

### 1 目的

将来を担う子どもたちにとって、より良い教育環境を確保するため、子どもたちが学びやすい適切な学校規模や適切な通学距離など、今後の学校の在り方について幸手市教育審議会が検討するに当たり、市民の皆様の御意見等を傾聴し、取りまとめた結果を本審議会の参考資料とするため実施したものです。

### 2 対象者

- ① 市内小・中学校に児童・生徒が在学している保護者
- ② 市内小・中学校に在学する児童・生徒（小5・6、中1・2を対象）
- ③ 学校運営協議会委員 ※委員のうち、保護者は①で回答
- ④ 私立幼稚園・保育園、公立保育所に子どもを通わせている市内在住の保護者

### 3 調査方法

WEB方式（インターネット環境が無い方については、出力した調査票で回答を依頼）

- ① 各学校から保護者宛連絡メールを使って回答先URL等を通知  
※実施前に、各学校から保護者宛に、アンケート調査の事前告知を実施
- ② 学校内でタブレット端末を使用して回答
- ③ QRコードを印字した依頼文を配布  
※希望される方には後日、出力した調査票を配布し、返信用封筒で回収
- ④ QRコード等を印字した依頼文を配布  
※希望される方には後日、出力した調査票を配布し、返信用封筒で回収

### 4 調査期間

令和4年9月12日（月）～令和4年9月30日（金）

### 5 調査項目と対象者

調査項目	①	②	③	④
1 望ましい小・中学校1学年当たりの学級数(人数)とその理由	○	○	○	○
2 小・中学生の片道通学距離の許容範囲と望ましい通学方法	○		○	○
3 市内小・中学校全体の統廃合の賛否	○		○	○
4 学校に求めるもの（ハード面・ソフト面）	○	○	○	○
5 小中一貫教育への期待度と望むこと	○			○
6 今後の幼児教育の在り方について	○		○	○

## 6 回収結果

対象者	対象者数	回答数	回答率
① 市内小・中学校に児童・生徒が在学している保護者	2,090	1,460	69.9%
② 市内小・中学校に在学する児童・生徒 (小5・6、中1・2を対象)	1,556	1,053	67.7%
③ 学校運営協議会委員 ※委員のうち、保護者は①で回答	120	80	66.7%
④ 私立幼稚園・保育園、公立保育所に子どもを 通わせている市内在住の保護者	383	134	35.0%
全 体	4,149	2,727	65.7%

## 7 報告書の見方・留意点

- ① 集計した数値(%)は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。したがって、各項目の構成比の合計は、必ずしも100%にならない場合があります。
- ② 回答者数を母数として計算しているため、複数回答の場合は、各選択肢の数値を合計すると100%を超える場合があります。
- ③ 回答数が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があることにご留意ください。

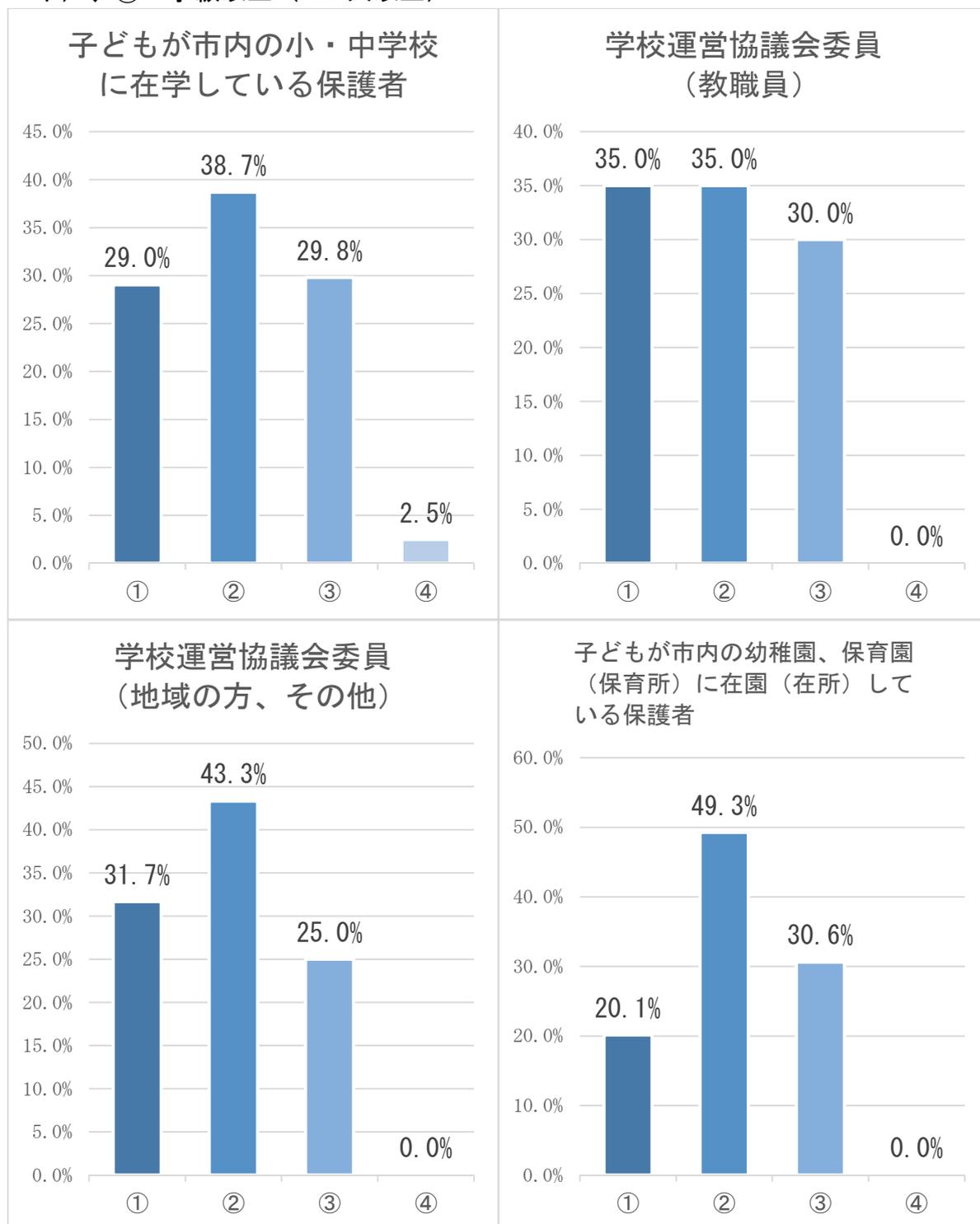
## 第2章 調査の結果

### 1 保護者等

(1) 望ましい小・中学校1学年当たりの学級数(人数)とその理由

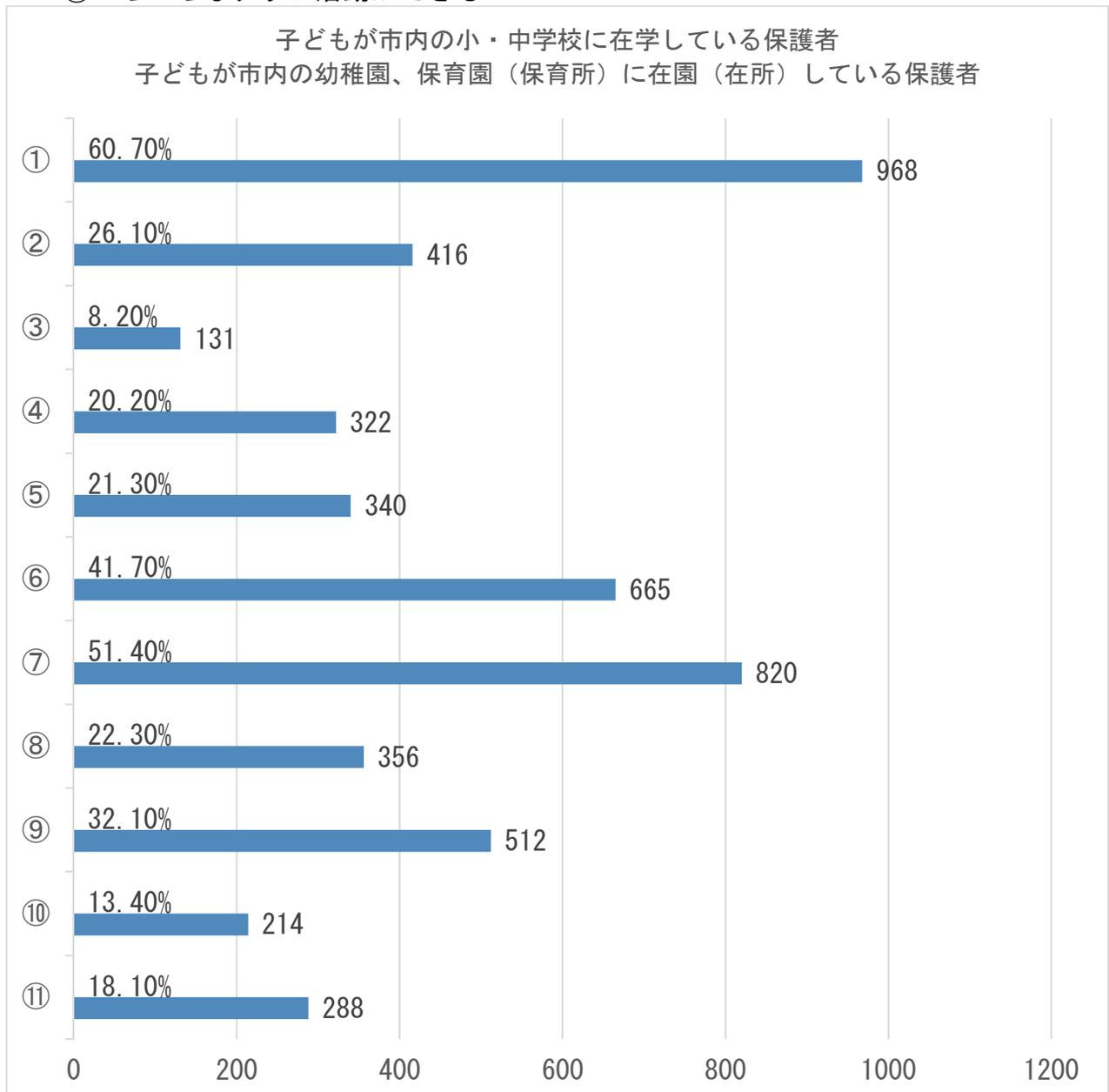
Q1 小学校1学年当たりで望ましいと思う学級数(児童数)についてお答えください。

A ①1学級(35人以下)、②2学級(36人~70人以下)、③3学級(71人~105人以下)、④4学級以上(106人以上)

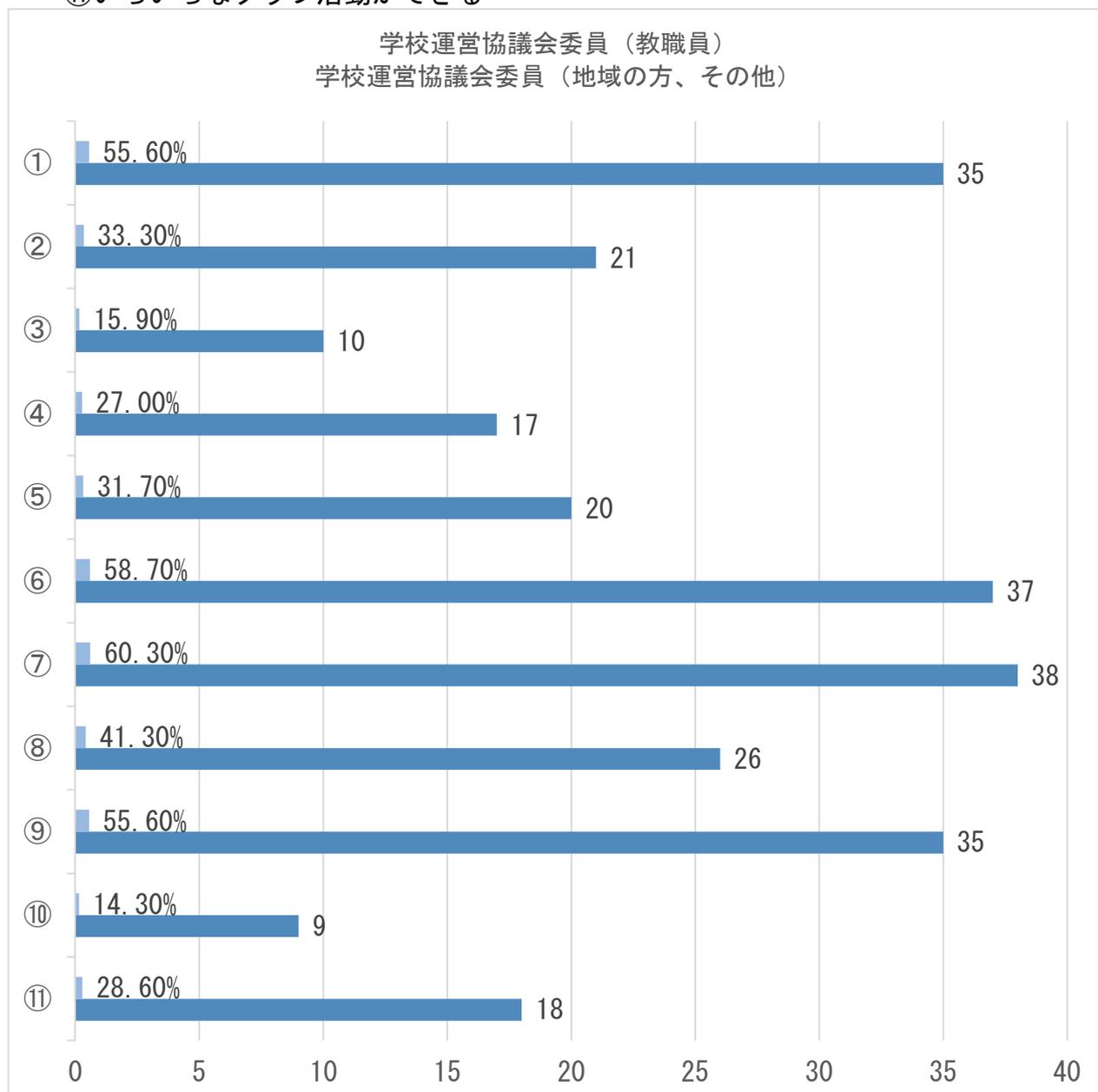


Q 2 前の設問で選んだ回答の理由をお答えください。(複数選択可)

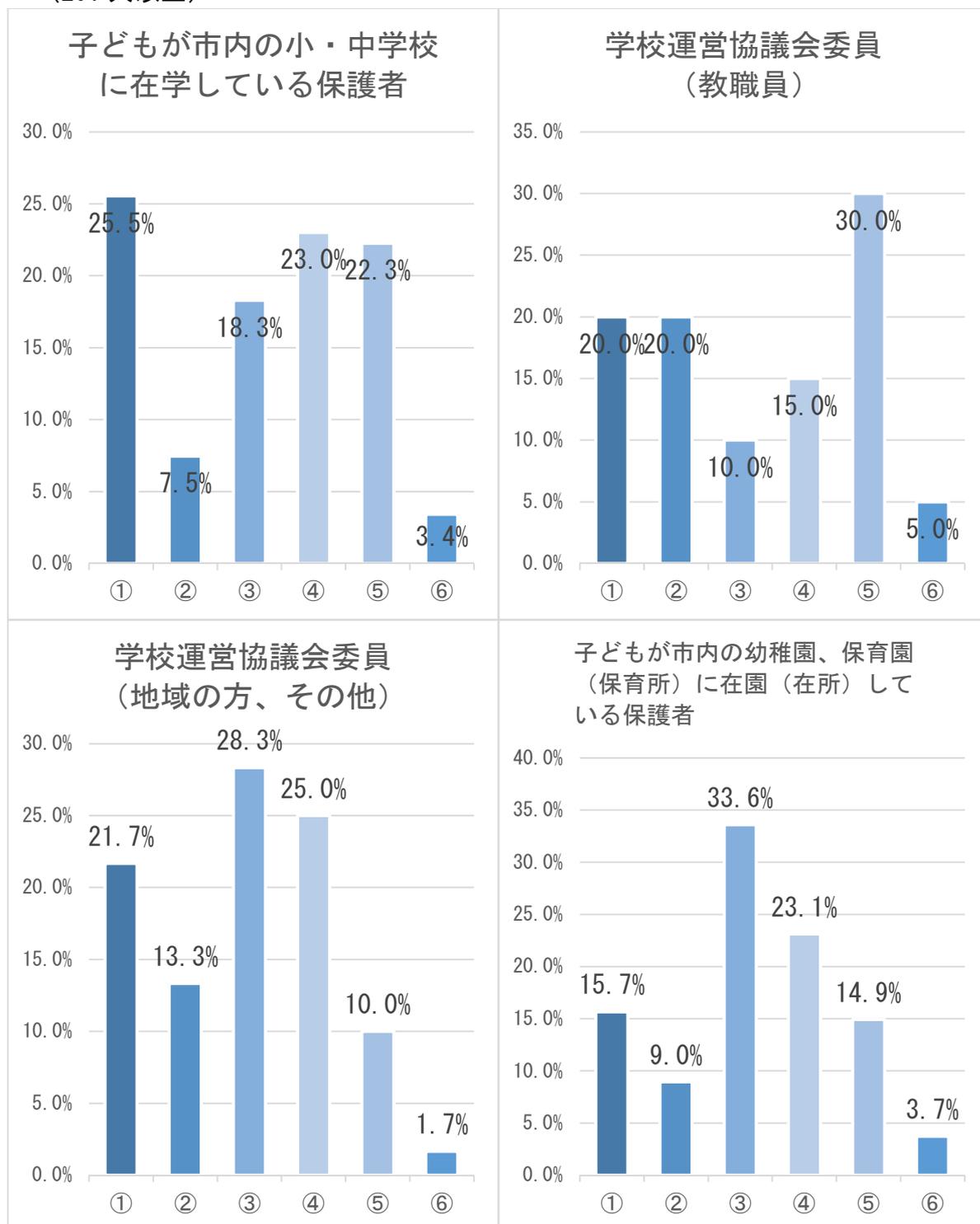
- A ①児童一人一人に目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる  
②クラス内の仲間意識が生まれやすい  
③異学年間の交流が生まれやすい  
④運動場や体育館などの教室や、理科の実験器具などの教材が余裕をもって使える  
⑤学習活動や学校行事等において、児童一人一人の活躍や登場の機会が多くなる  
⑥集団の中でコミュニケーション能力を身につけやすい  
⑦クラス替えがあり、たくさんの友達ができる  
⑧競争意識を持ちやすく、能力向上に繋がる  
⑨学習活動や学校行事等が盛り上がる  
⑩男女比の偏りが生じにくい  
⑪いろいろなクラブ活動ができる



- A
- ①児童一人一人に目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
  - ②クラス内の仲間意識が生まれやすい
  - ③異学年間の交流が生まれやすい
  - ④運動場や体育館などの教室や、理科の実験器具などの教材が余裕をもって使える
  - ⑤学習活動や学校行事等において、児童一人一人の活躍や登場の機会が多くなる
  - ⑥集団の中でコミュニケーション能力を身につけやすい
  - ⑦クラス替えがあり、たくさんの友達ができる
  - ⑧競争意識を持ちやすく、能力向上に繋がる
  - ⑨学習活動や学校行事等が盛り上がる
  - ⑩男女比の偏りが生じにくい
  - ⑪いろいろなクラブ活動ができる

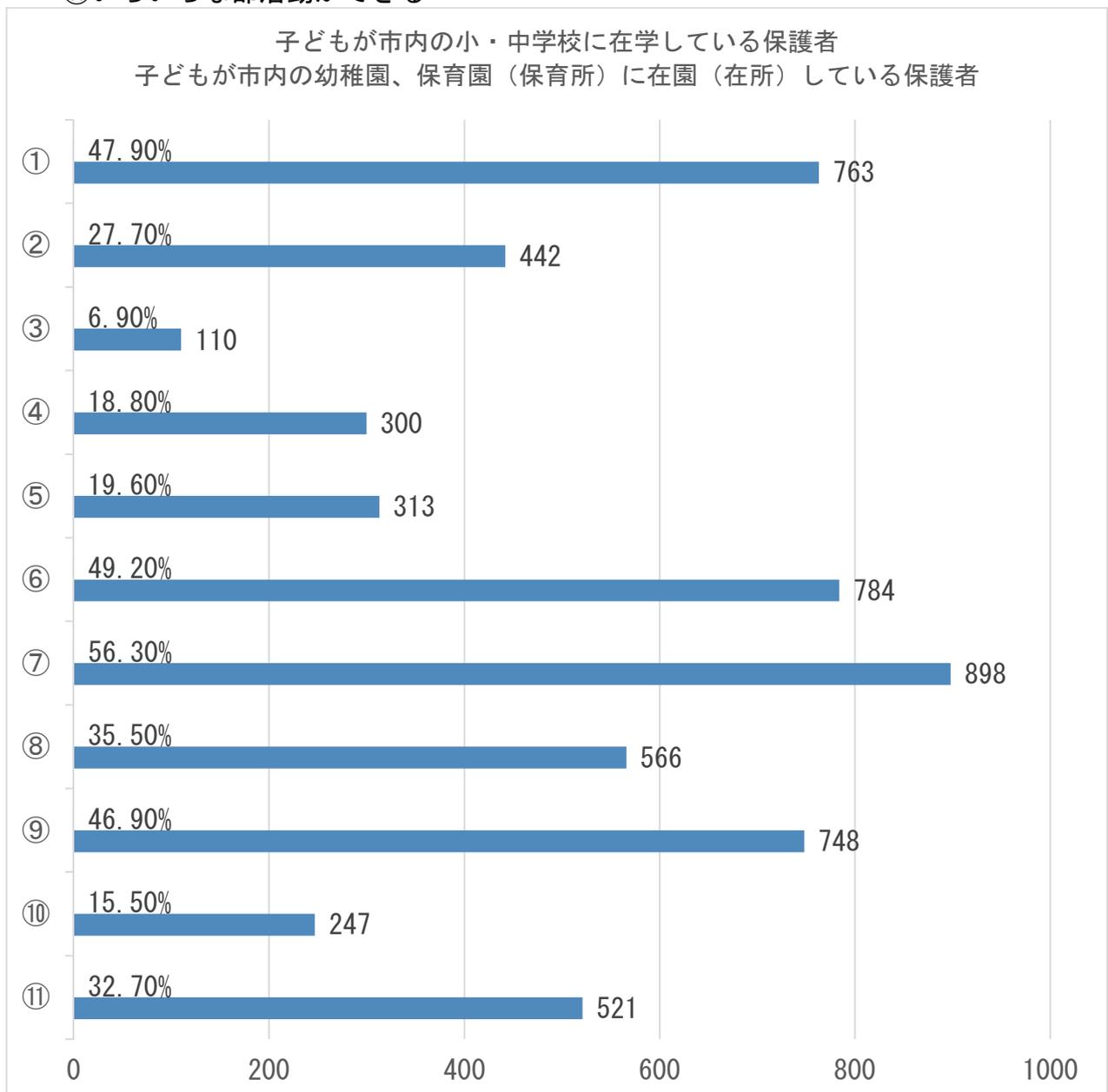


Q3 中学校1学年当たりで望ましいと思う学級数（生徒数）についてお答えください。  
 A ①1学級（40人以下）、②2学級（41人～80人以下）、③3学級（81人～120人以下）、④4学級（121人～160人以下）、⑤5学級（161人～200人以下）、⑥6学級以上（201人以上）

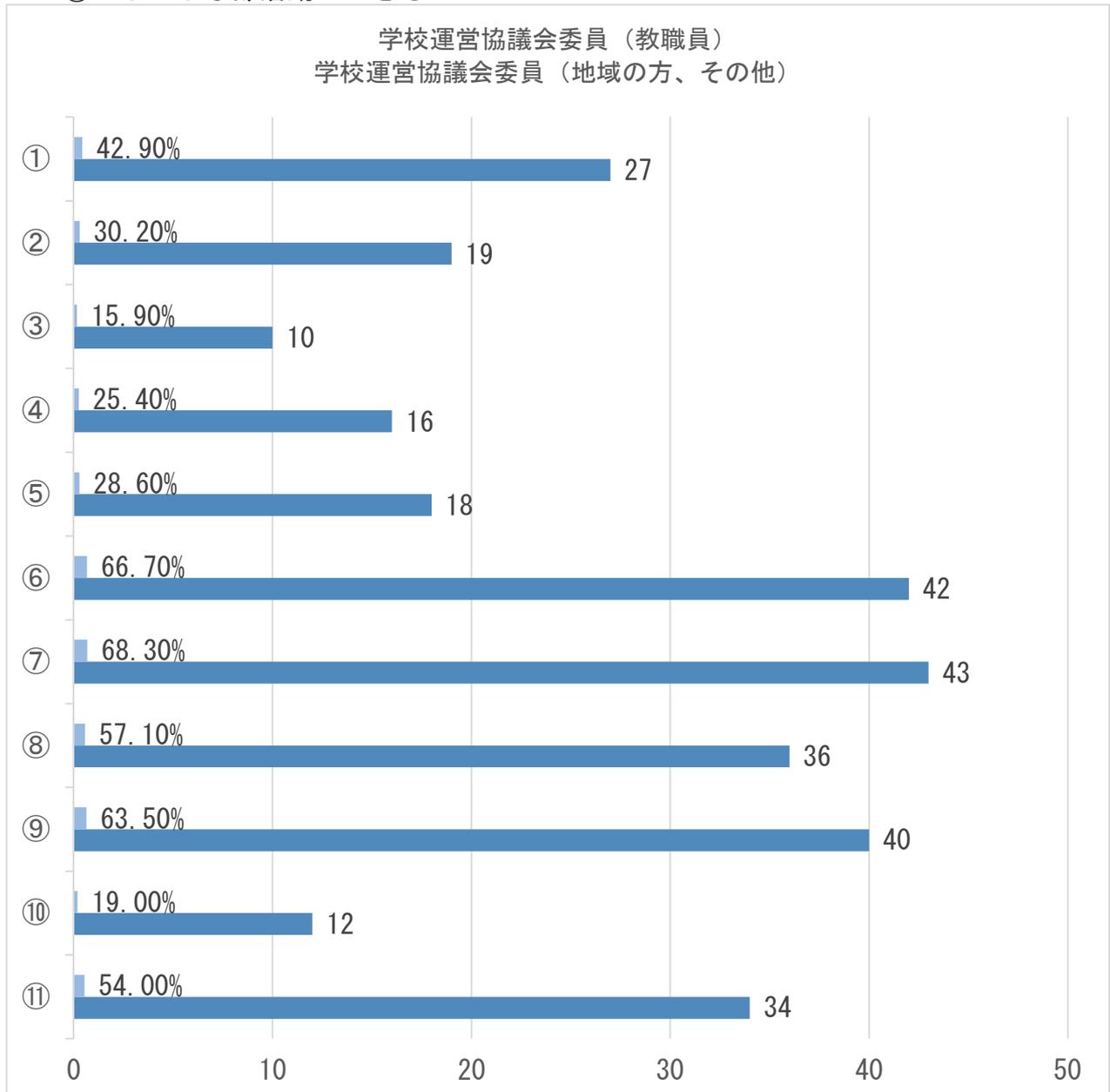


Q 4 前の設問で選んだ回答の理由をお答えください。(複数選択可)

- A ①生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる  
 ②クラス内の仲間意識が生まれやすい  
 ③異学年間の交流が生まれやすい  
 ④運動場や体育館などの教室や、理科の実験器具などの教材が余裕をもって使える  
 ⑤学習活動や学校行事等において、生徒一人一人の活躍や登場の機会が多くなる  
 ⑥集団の中でコミュニケーション能力を身につけやすい  
 ⑦クラス替えがあり、たくさんの友達ができる  
 ⑧競争意識を持ちやすく、能力向上に繋がる  
 ⑨学習活動や学校行事等が盛り上がる  
 ⑩男女比の偏りが生じにくい  
 ⑪いろいろな部活動ができる



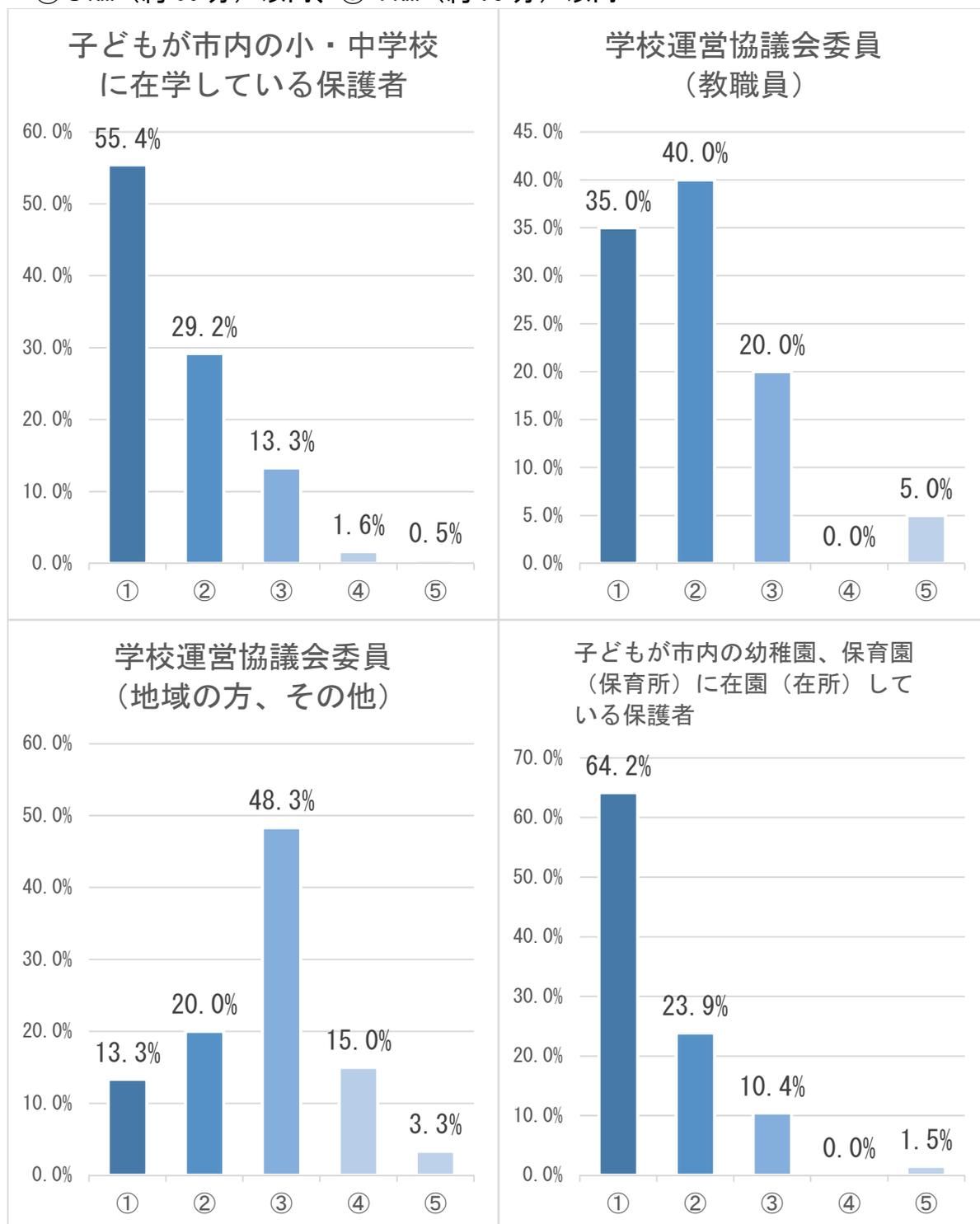
- A
- ①生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
  - ②クラス内の仲間意識が生まれやすい
  - ③異学年間の交流が生まれやすい
  - ④運動場や体育館などの教室や、理科の実験器具などの教材が余裕をもって使える
  - ⑤学習活動や学校行事等において、生徒一人一人の活躍や登場の機会が多くなる
  - ⑥集団の中でコミュニケーション能力を身につけやすい
  - ⑦クラス替えがあり、たくさんの友達ができる
  - ⑧競争意識を持ちやすく、能力向上に繋がる
  - ⑨学習活動や学校行事等が盛り上がる
  - ⑩男女比の偏りが生じにくい
  - ⑪いろいろな部活動ができる



(2) 小・中学生の片道通学距離の許容範囲と望ましい通学方法

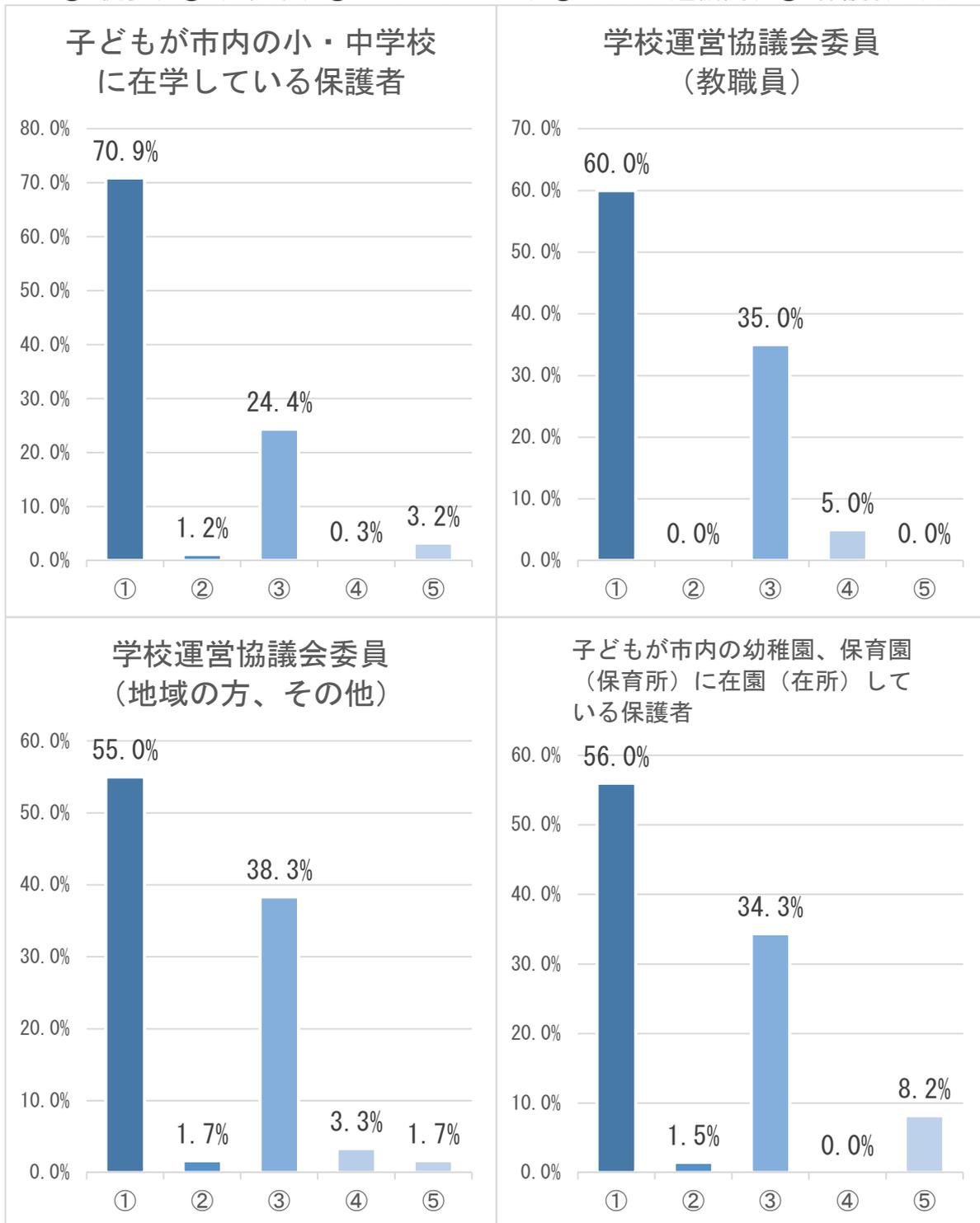
Q 1 小学校にとって望ましいと思う通学距離についてお答えください。

A ① 1 km (約 20 分) 以内、② 1.5 km (約 25 分) 以内、③ 2 km (約 35 分) 以内、  
④ 3 km (約 60 分) 以内、⑤ 4 km (約 75 分) 以内



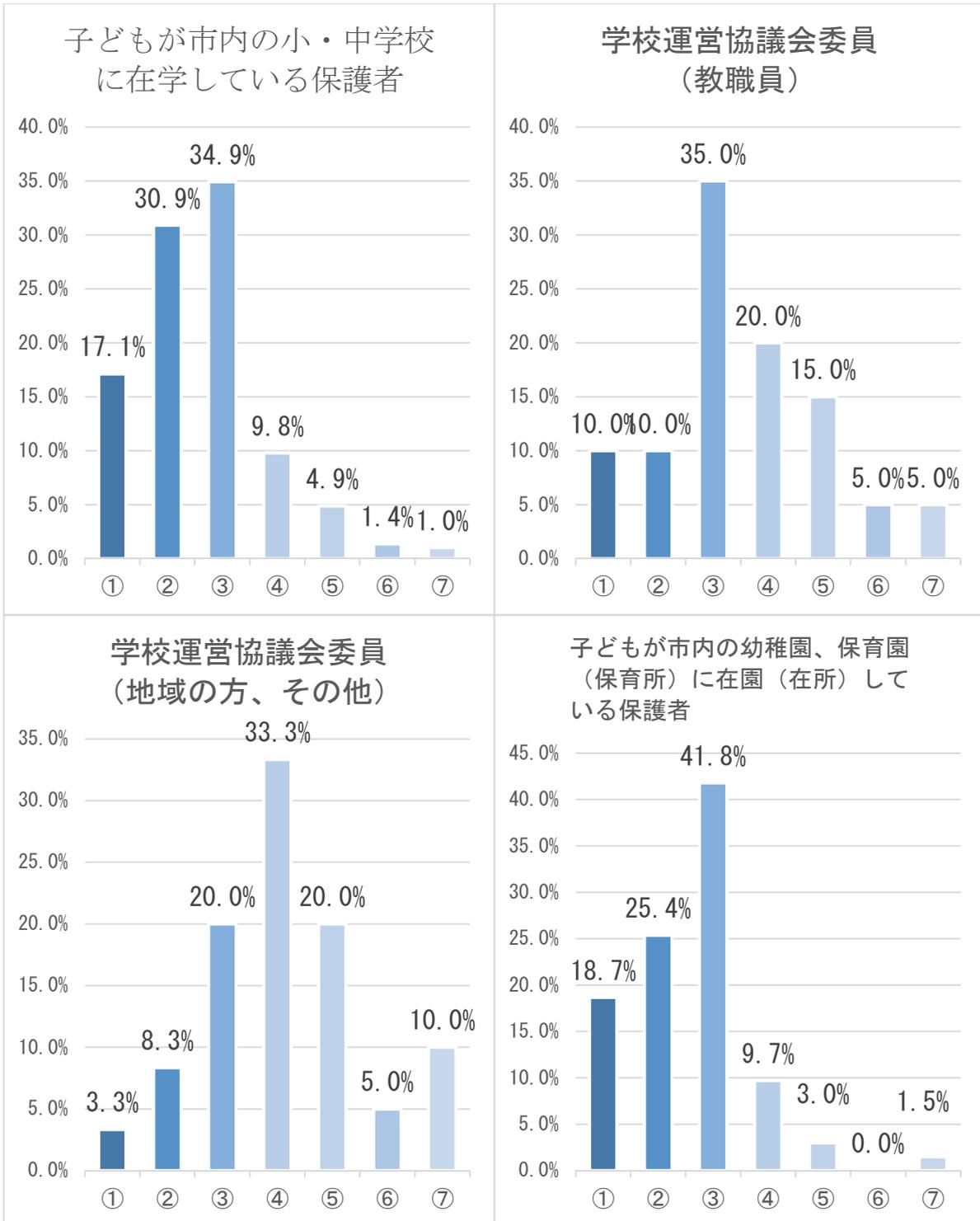
Q2 小学生にとって望ましいと思う通学方法についてお答えください。

A ① 徒歩、② 自転車、③ スクールバス、④ 公共交通機関、⑤ 保護者の送迎



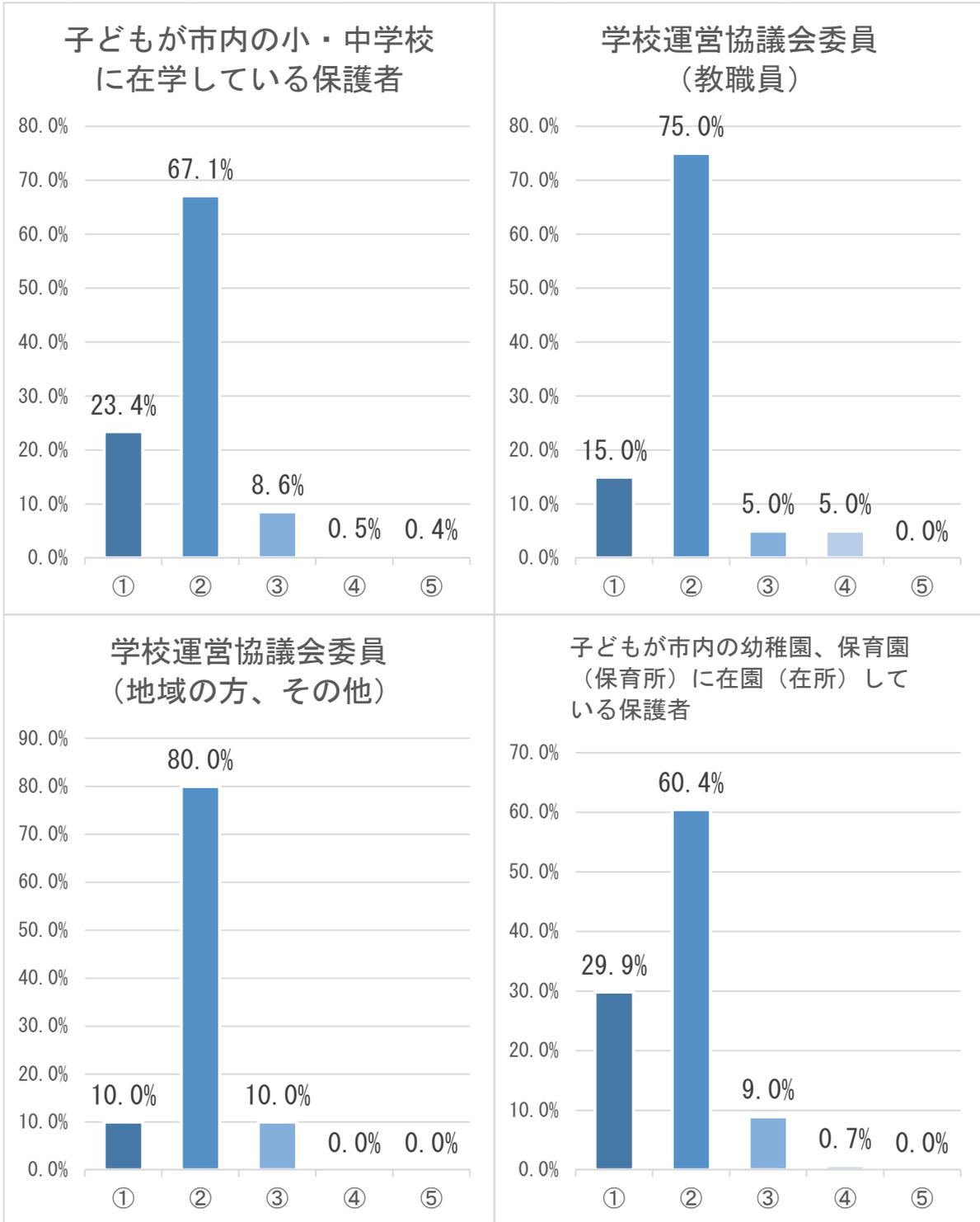
Q3 中学校にとって望ましいと思う通学距離についてお答えください。

A ① 1 km (約 15 分) 以内、② 1.5 km (約 25 分) 以内、③ 2 km (約 30 分) 以内、  
④ 3 km (約 45 分) 以内、⑤ 4 km (約 60 分) 以内、⑥ 5 km (約 75 分) 以内、⑦ 6 km (約 90 分) 以内



Q 4 中学生にとって望ましいと思う通学方法についてお答えください。

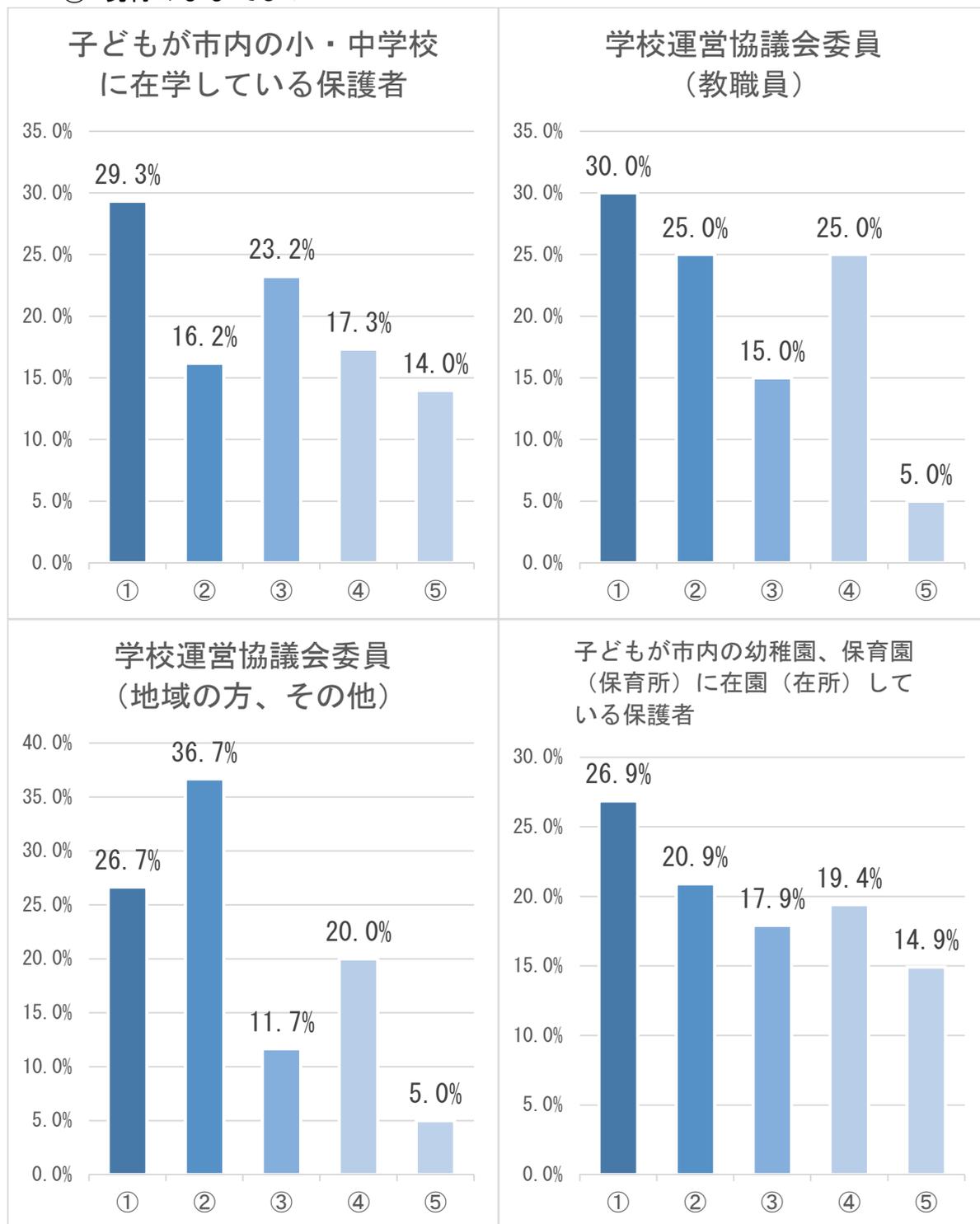
A ① 徒歩、② 自転車、③ スクールバス、④ 公共交通機関、⑤ 保護者の送迎



(3) 市内小・中学校全体の統廃合の賛否

Q 1 市内小・中学校全体の統廃合についてお答えください。

- A ① 全ての小・中学校の再編を将来的には検討したほうがよい  
 ② 全ての小・中学校の再編を早急に検討したほうがよい  
 ③ 小規模校の再編についてのみ、将来的には検討したほうがよい  
 ④ 小規模校の再編についてのみ、早急に検討したほうがよい  
 ⑤ 現行のままでよい

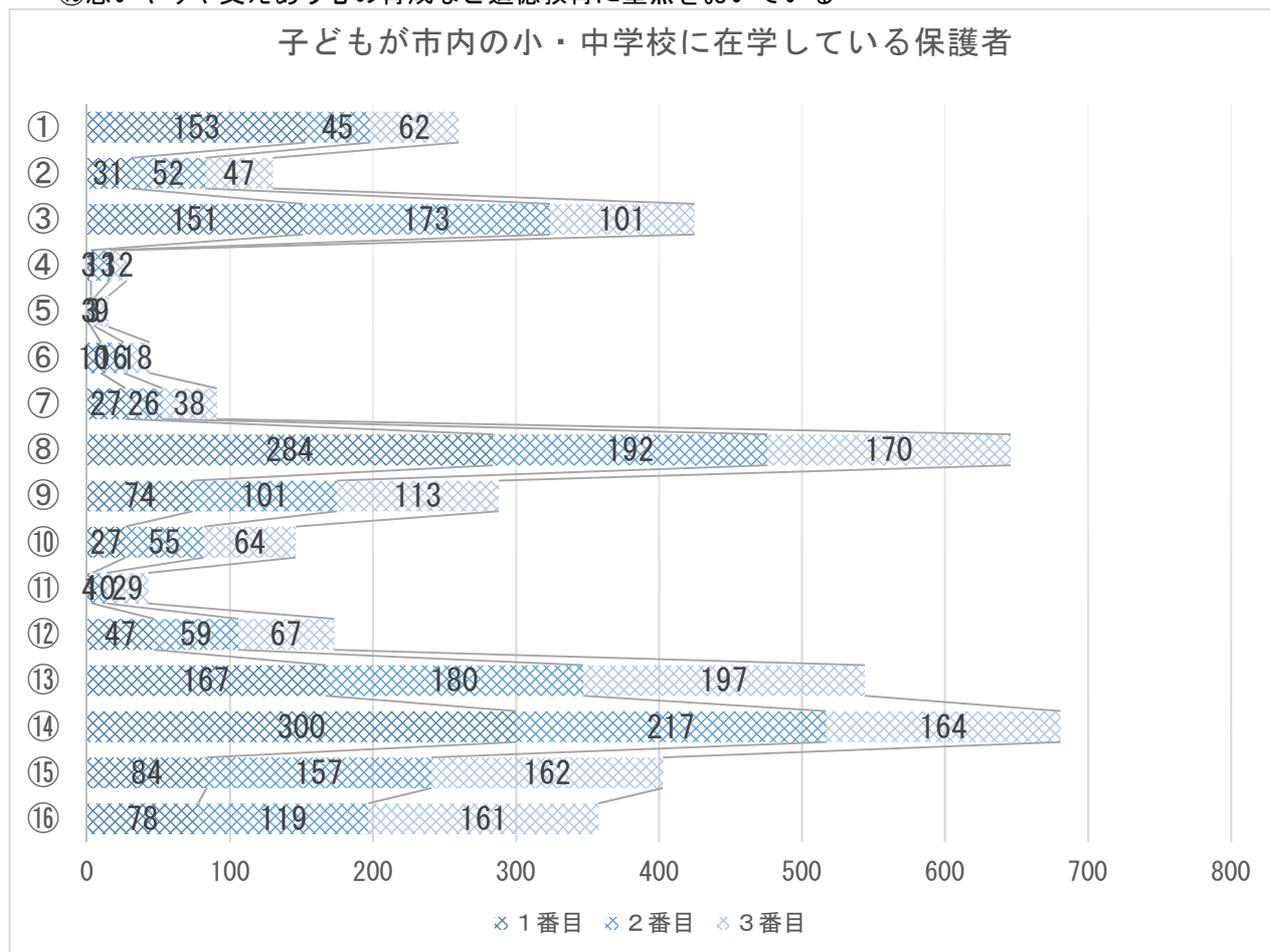


(4) 学校に求めるもの (ハード面・ソフト面)

Q1 未来を担う子どもたちにとって必要だと思う学校施設・教育について、次の中から3つまでお答えください。

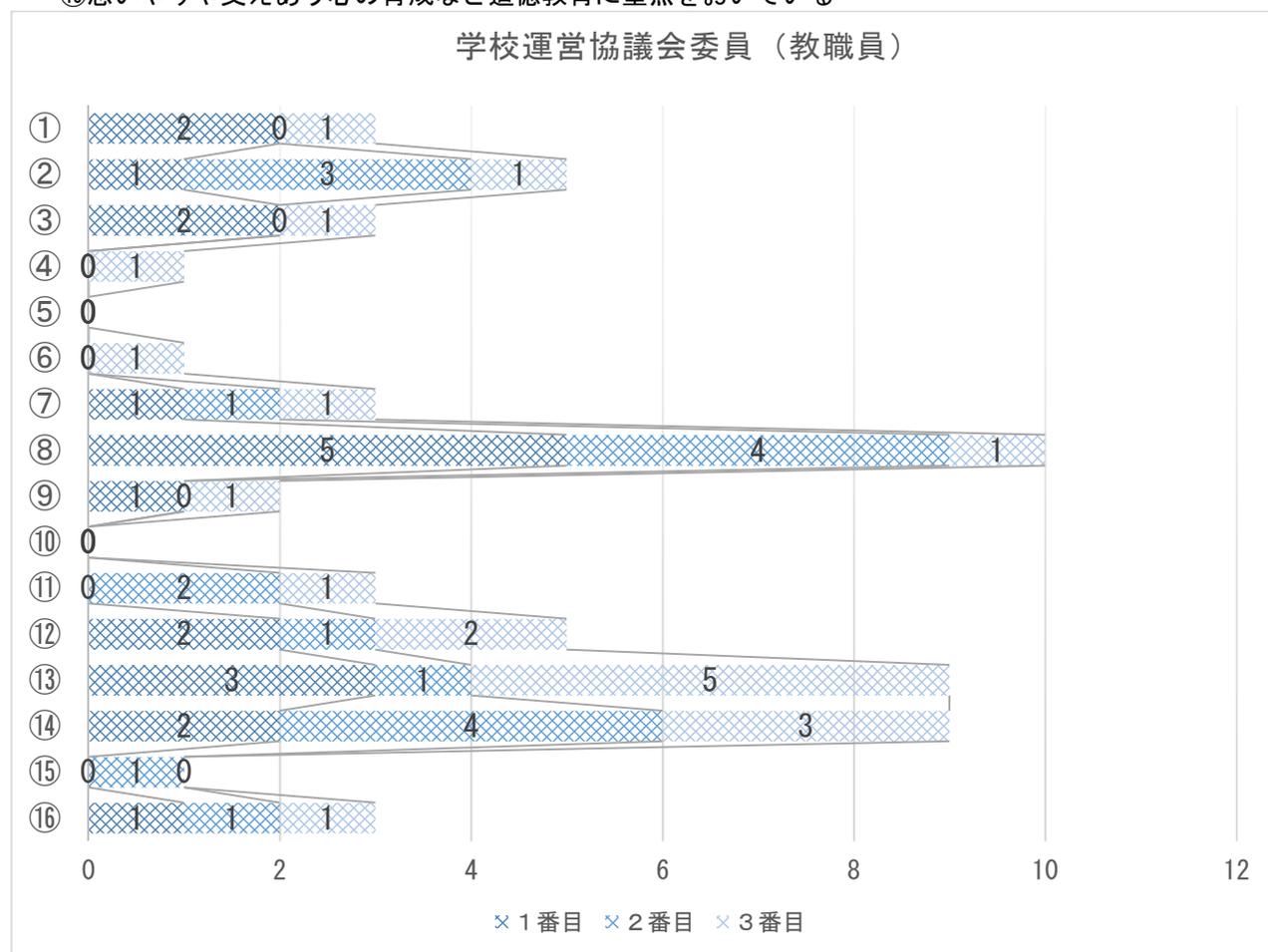
※1番目から3番目まで、次の中から1つずつ選んでください。

- A
- ①通学距離が短い
  - ②学校が綺麗である
  - ③エアコンなどの空調設備が整っている
  - ④校庭が広い
  - ⑤遊具などがいっぱいある
  - ⑥学校内がバリアフリー化されている (昇降口や、教室と廊下の境に段差がない など)
  - ⑦教育の変化に対応する建物となっている (可動式仕切りで自由に学習空間を区分できる学習室 など)
  - ⑧安心・安全である (防犯カメラが設置されている、施設の定期点検や修理が適切にされている など)
  - ⑨学校行事が充実している (運動会や体育祭、文化祭、音楽祭 など)
  - ⑩クラブ活動・部活動が活発である
  - ⑪地域の人とつながりがある (昔の遊びや文化を学べる など)
  - ⑫教員が新しい教育を指導できるよう研修に取り組んでいる
  - ⑬時代に合った教育を行っている (タブレットPCや大型ディスプレイなどのICTを活用した教育、伝統・文化に関する教育 など)
  - ⑭それぞれの子どもを理解度に合わせた、きめ細かな学習指導をしてくれる
  - ⑮いじめや不登校の解消に取り組んでいる
  - ⑯思いやりや支えあう心の育成など道徳教育に重点をおいている



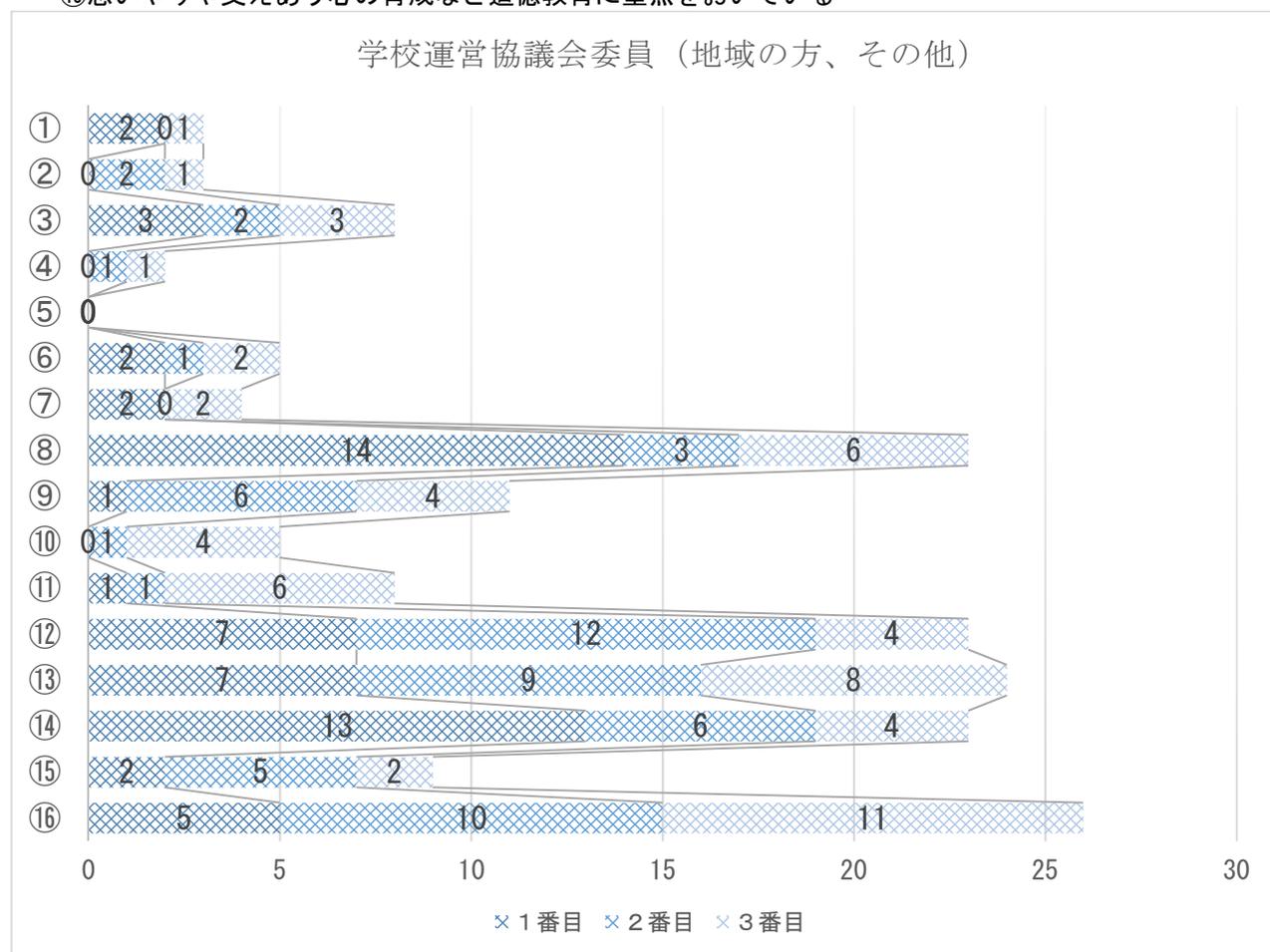
※1番目から3番目まで、次の中から1つずつ選んでください。

- A
- ①通学距離が短い
  - ②学校が綺麗である
  - ③エアコンなどの空調設備が整っている
  - ④校庭が広い
  - ⑤遊具などがいっぱいある
  - ⑥学校内がバリアフリー化されている（昇降口や、教室と廊下の境に段差がない など）
  - ⑦教育の変化に対応する建物となっている（可動式仕切りで自由に学習空間を区分できる学習室 など）
  - ⑧安心・安全である（防犯カメラが設置されている、施設の定期点検や修理が適切にされている など）
  - ⑨学校行事が充実している（運動会や体育祭、文化祭、音楽祭 など）
  - ⑩クラブ活動・部活動が活発である
  - ⑪地域の人とつながりがある（昔の遊びや文化を学べる など）
  - ⑫教員が新しい教育を指導できるよう研修に取り組んでいる
  - ⑬時代に合った教育を行っている（タブレットPCや大型ディスプレイなどのICTを活用した教育、伝統・文化に関する教育 など）
  - ⑭それぞれの子どもの理解度に合わせた、きめ細かな学習指導をしてくれる
  - ⑮いじめや不登校の解消に取り組んでいる
  - ⑯思いやりや支えあう心の育成など道徳教育に重点をおいている



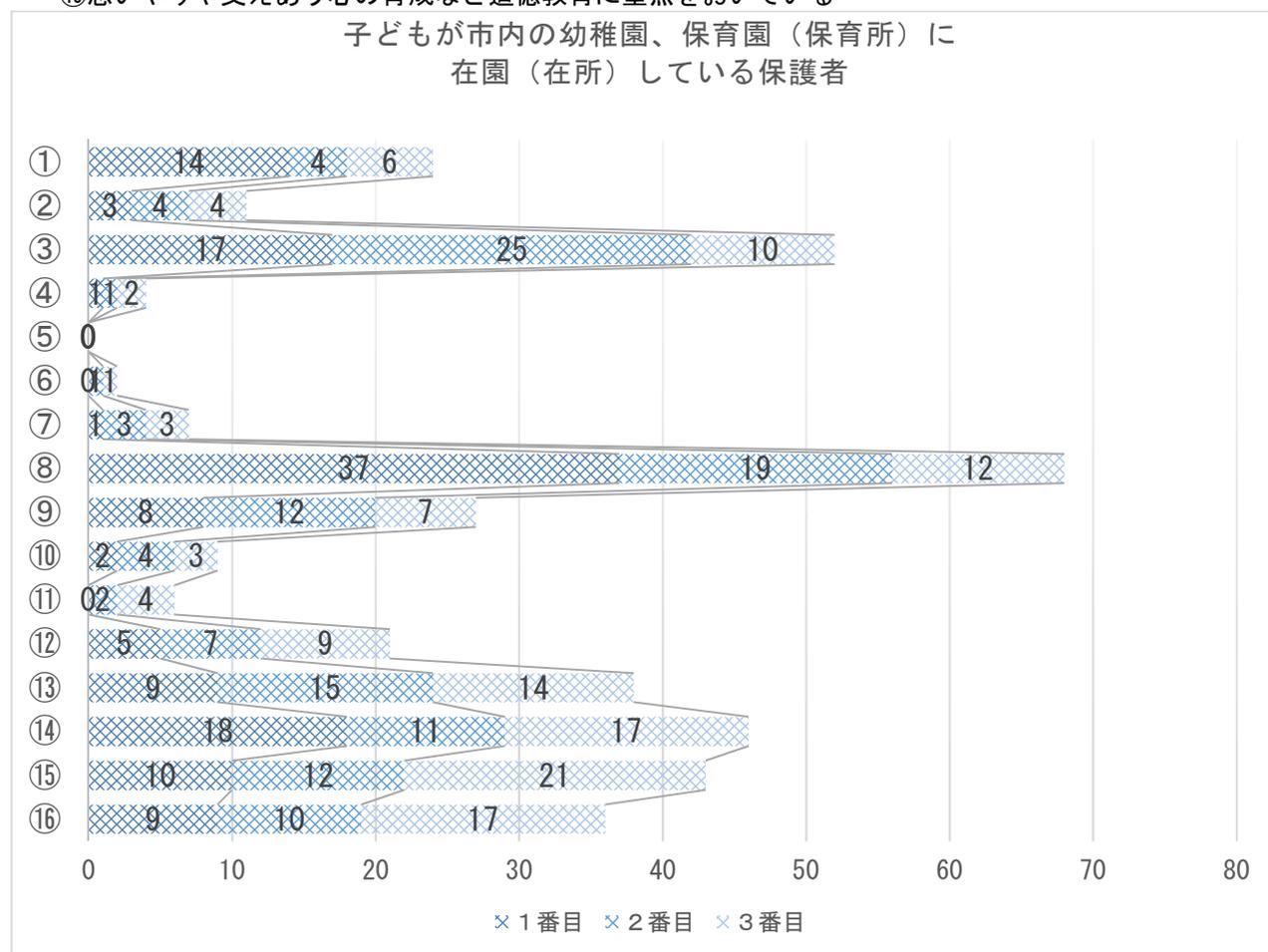
※1番目から3番目まで、次の中から1つずつ選んでください。

- A
- ①通学距離が短い
  - ②学校が綺麗である
  - ③エアコンなどの空調設備が整っている
  - ④校庭が広い
  - ⑤遊具などがいっぱいある
  - ⑥学校内がバリアフリー化されている（昇降口や、教室と廊下の境に段差がない など）
  - ⑦教育の変化に対応する建物となっている（可動式仕切りで自由に学習空間を区分できる学習室 など）
  - ⑧安心・安全である（防犯カメラが設置されている、施設の定期点検や修理が適切にされている など）
  - ⑨学校行事が充実している（運動会や体育祭、文化祭、音楽祭 など）
  - ⑩クラブ活動・部活動が活発である
  - ⑪地域の人とつながりがある（昔の遊びや文化を学べる など）
  - ⑫教員が新しい教育を指導できるよう研修に取り組んでいる
  - ⑬時代に合った教育を行っている（タブレットPCや大型ディスプレイなどのICTを活用した教育、伝統・文化に関する教育 など）
  - ⑭それぞれの子どもの理解度に合わせた、きめ細かな学習指導をしてくれる
  - ⑮いじめや不登校の解消に取り組んでいる
  - ⑯思いやりや支えあう心の育成など道徳教育に重点をおいている



※1番目から3番目まで、次の中から1つずつ選んでください。

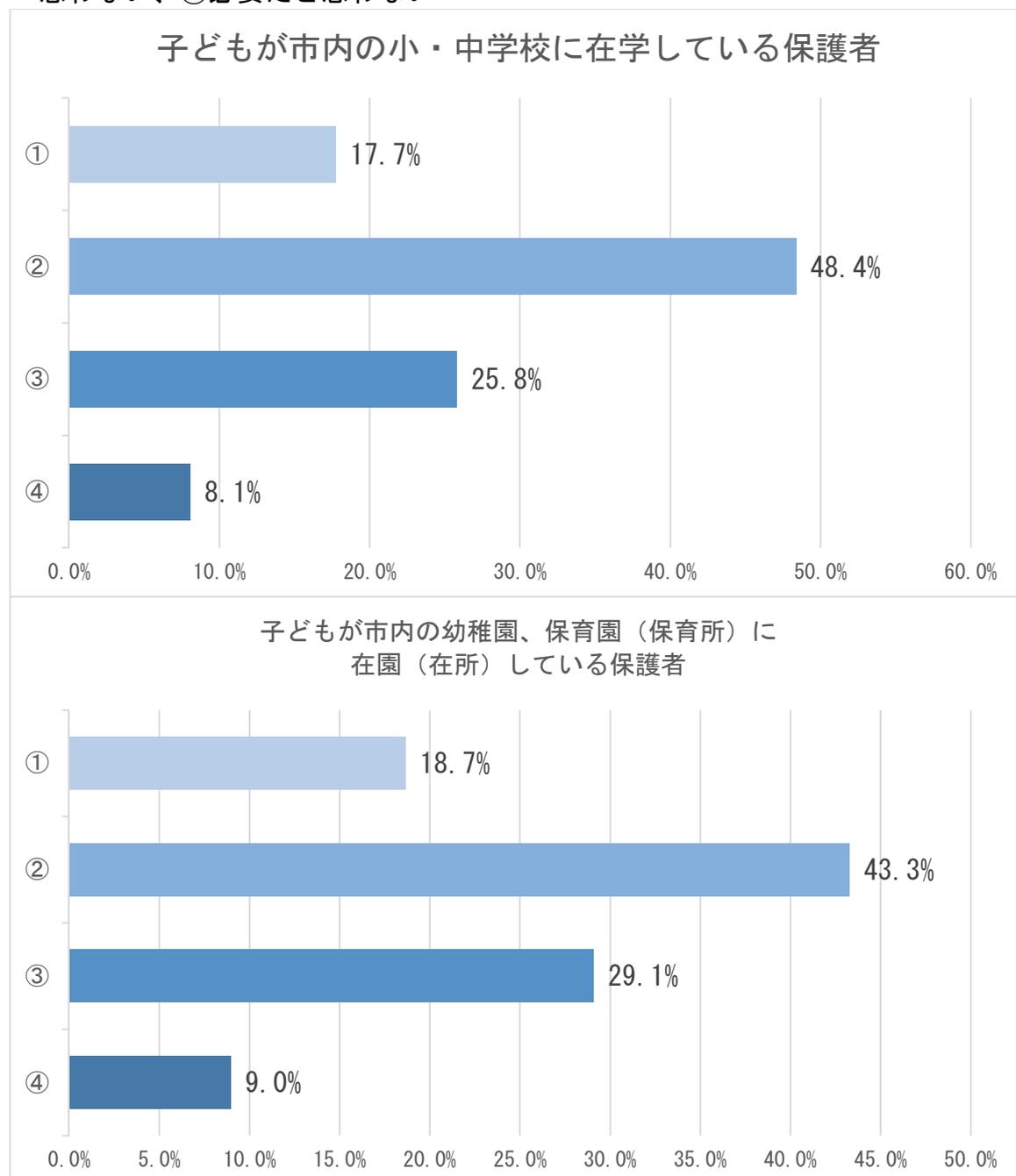
- A
- ①通学距離が短い
  - ②学校が綺麗である
  - ③エアコンなどの空調設備が整っている
  - ④校庭が広い
  - ⑤遊具などがいっぱいある
  - ⑥学校内がバリアフリー化されている（昇降口や、教室と廊下の境に段差がない など）
  - ⑦教育の変化に対応する建物となっている（可動式仕切りで自由に学習空間を区分できる学習室 など）
  - ⑧安心・安全である（防犯カメラが設置されている、施設の定期点検や修理が適切にされている など）
  - ⑨学校行事が充実している（運動会や体育祭、文化祭、音楽祭 など）
  - ⑩クラブ活動・部活動が活発である
  - ⑪地域の人とつながりがある（昔の遊びや文化を学べる など）
  - ⑫教員が新しい教育を指導できるよう研修に取り組んでいる
  - ⑬時代に合った教育を行っている（タブレットPCや大型ディスプレイなどのICTを活用した教育、伝統・文化に関する教育 など）
  - ⑭それぞれの子どもの理解度に合わせた、きめ細かな学習指導をしてくれる
  - ⑮いじめや不登校の解消に取り組んでいる
  - ⑯思いやりや支えあう心の育成など道徳教育に重点をおいている



(5) 小中一貫教育への期待度と望むこと

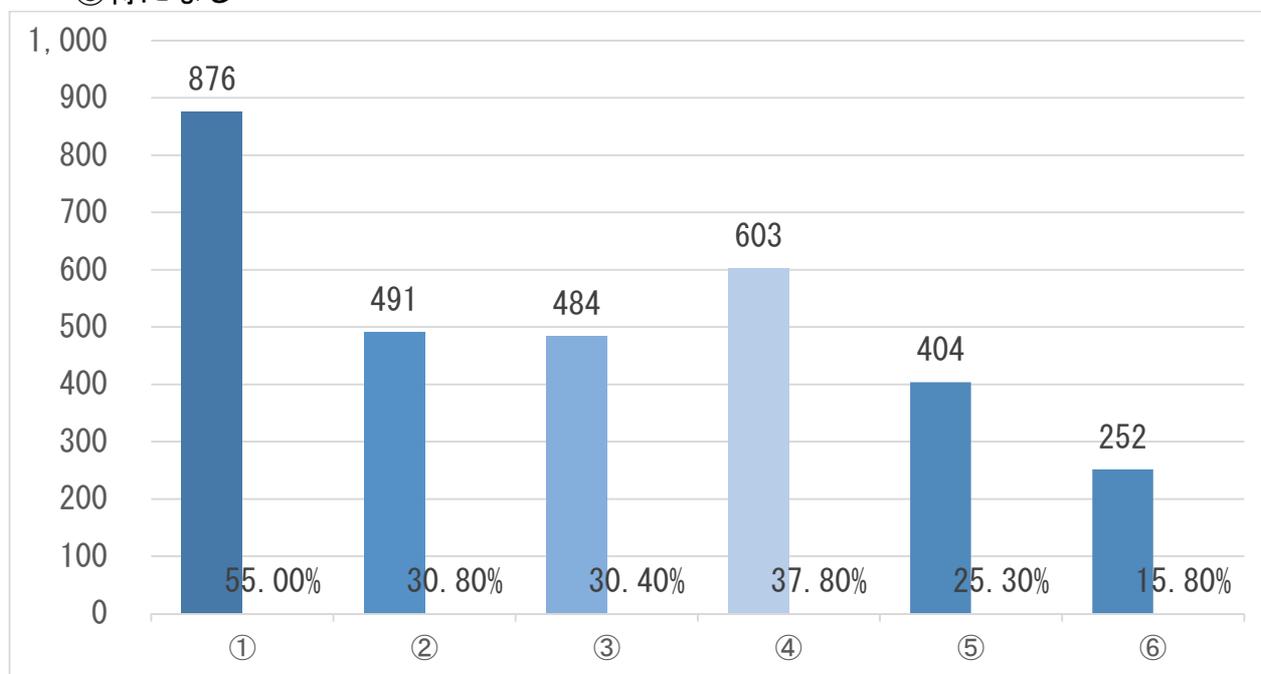
Q 1 小中一貫教育の必要性についてお答えください。

A ①必要だと思う、②どちらかというとな必要だと思う、③どちらかというとな必要だと思わない、④必要だと思わない



Q 2 小中一貫教育に期待する効果についてお答えください。(複数選択可)

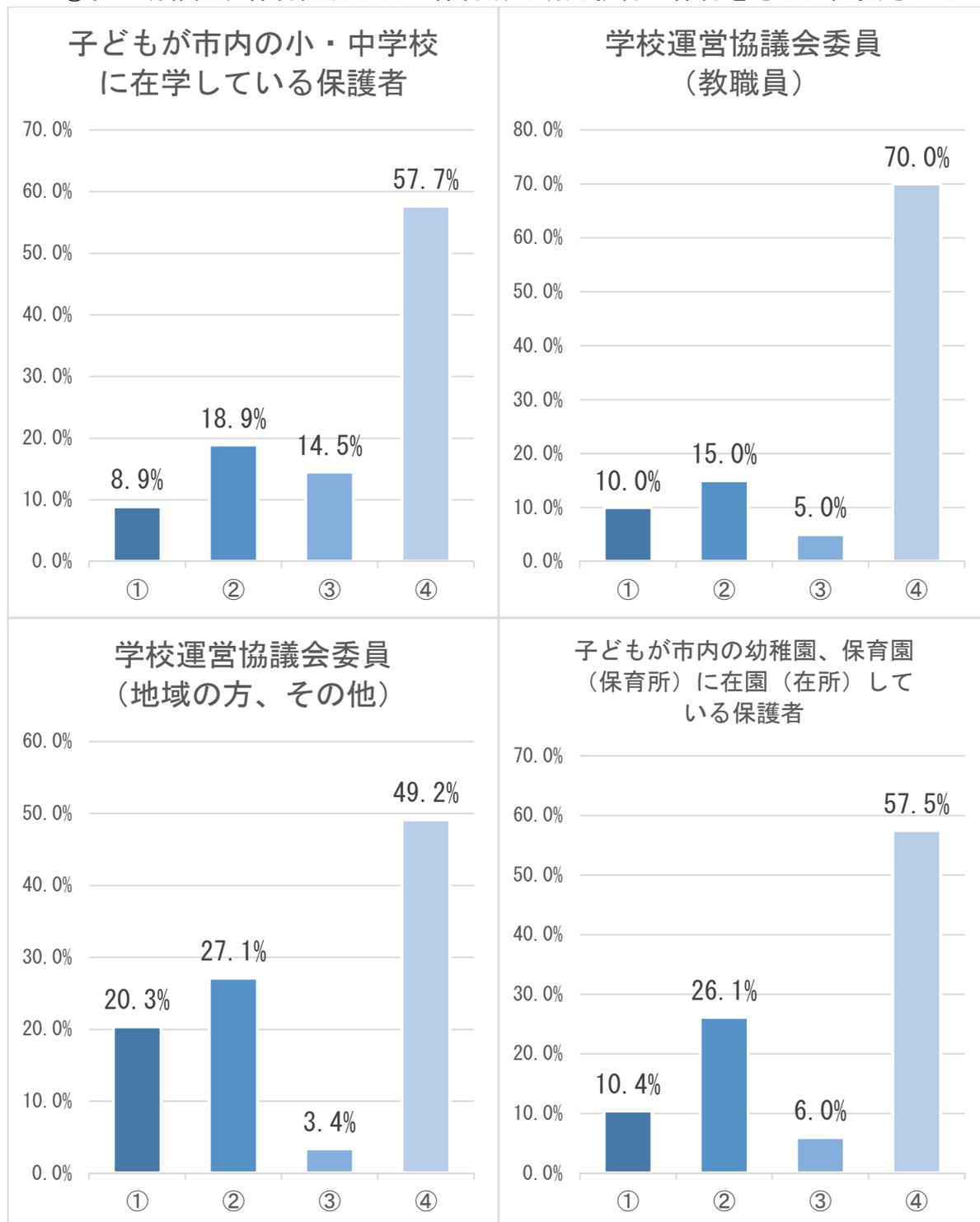
- A ①9年間を通して一貫したきめ細かな学習指導による学力の向上  
②異学年交流等による思いやりや支えあう心の育成  
③一貫した生活指導による、いじめや不登校問題の解消  
④新しい環境での学習や生活に係る課題(中一ギャップ等)の解消  
⑤クラブ活動・部活動の活性化  
⑥特になし



(6) 今後の幼児教育の在り方について

Q 1 今後の幼児教育の在り方についてお答えください。

- A ① 幼稚園と小学校を一体とした幼小一貫校を設置する  
 ② 公立保育所を認定こども園にする  
 ③ 公立幼稚園を設置する  
 ④ 私立幼稚園、保育園及び公立保育所の幼児教育や保育をさらに充実させる

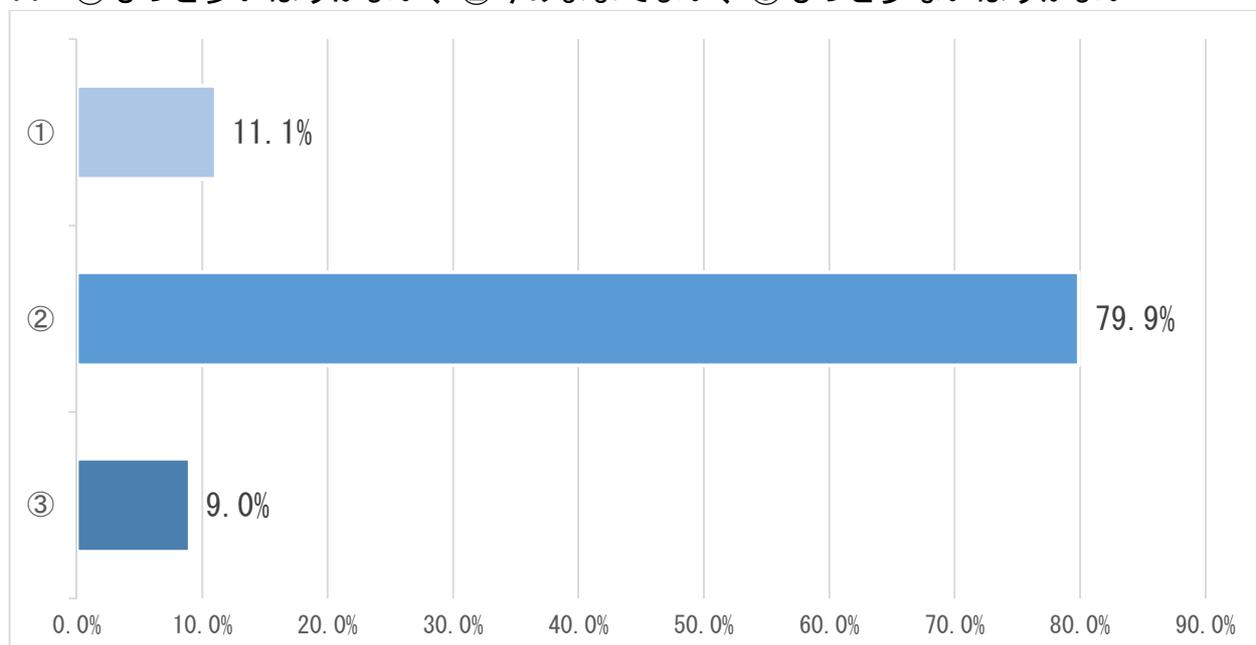


## 2 児童・生徒

(1) 望ましい小・中学校1学年当たりの学級数(人数)とその理由

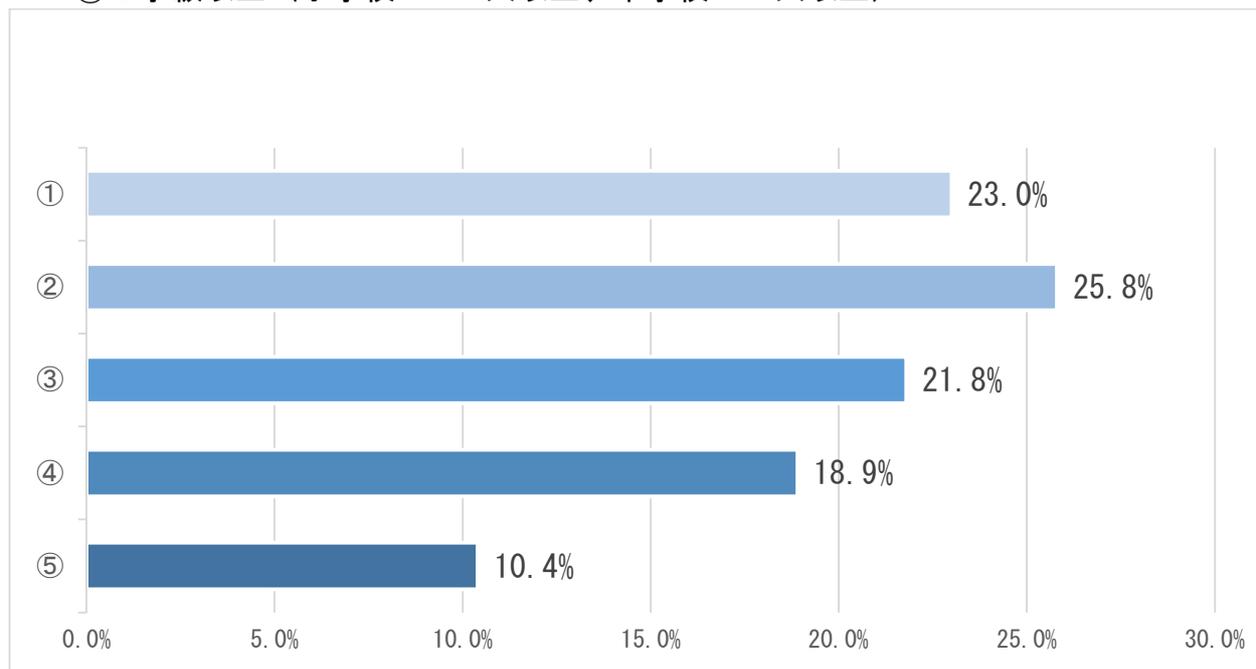
Q1 あなたのクラスの人数について、どのように感じているか一つ選んでください。

A ①もっと多いほうがよい、②今のままでよい、③もっと少ないほうがよい



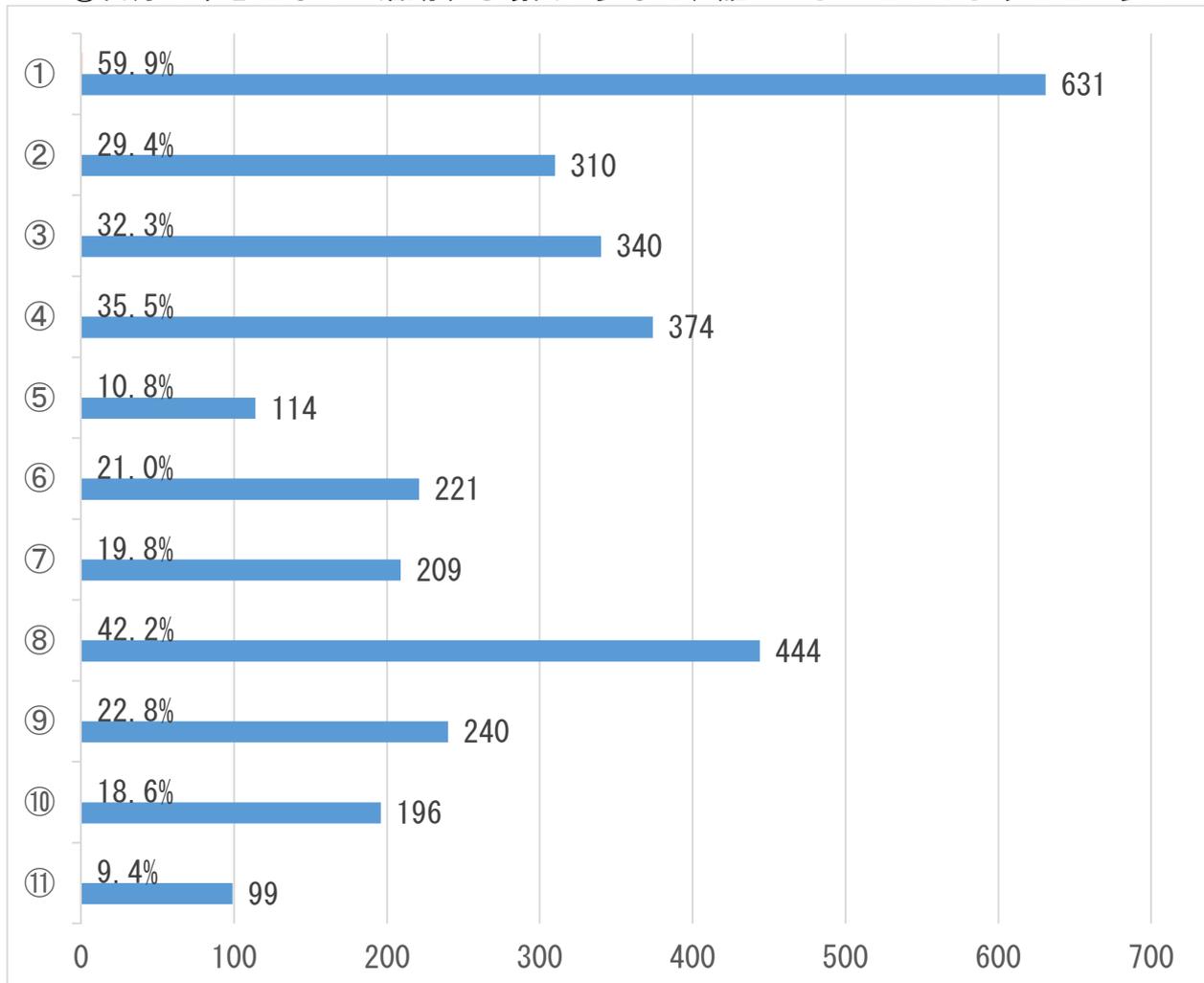
Q2 あなたの学校の1学年当たりの学級数(1学年の子どもの人数)は、どのくらいが良いと思いますか。一つ選んでください。

- A ①1学級(小学校:35人以下、中学校40人以下)  
②2学級(小学校:36人~70人以下、中学校:41人~80人以下)  
③3学級(小学校:71人~105人以下、中学校:81人~120人以下)  
④4学級(小学校:106人~140人以下、中学校:121人~160人以下)  
⑤5学級以上(小学校:141人以上、中学校161人以上)



Q 3 前の設問で選んだ回答の理由をお答えください。(複数選たく可)

- A ①クラスの仲間の人数が多いので楽しい  
②クラブ・委員会の種類がたくさんある  
③グループ学習など、いろいろな学級の仲間との組み合わせで授業ができる  
④いろいろな考えをもった学級の仲間がいるので、たくさんの考えを知ることができる  
⑤友達がいつも同じで、別の友達をつくることができない  
⑥学校行事で一人一人が中心となって活やくできる場がある  
⑦授業中、困ったときに先生がすぐに気づいてくれて、個別の指導を受けやすい  
⑧運動会や体育祭、学習発表会などの学校行事がもり上がり、クラスに活気がある  
⑨ゆとりや安心感などがあり、家庭的な感じで勉強ができる  
⑩下級生の子たちと接する機会が多く、やさしさや思いやりの気持ちを持てる  
⑪自分が中心となって活動する場面が少なく、誰かにまかせてしまうことが多い

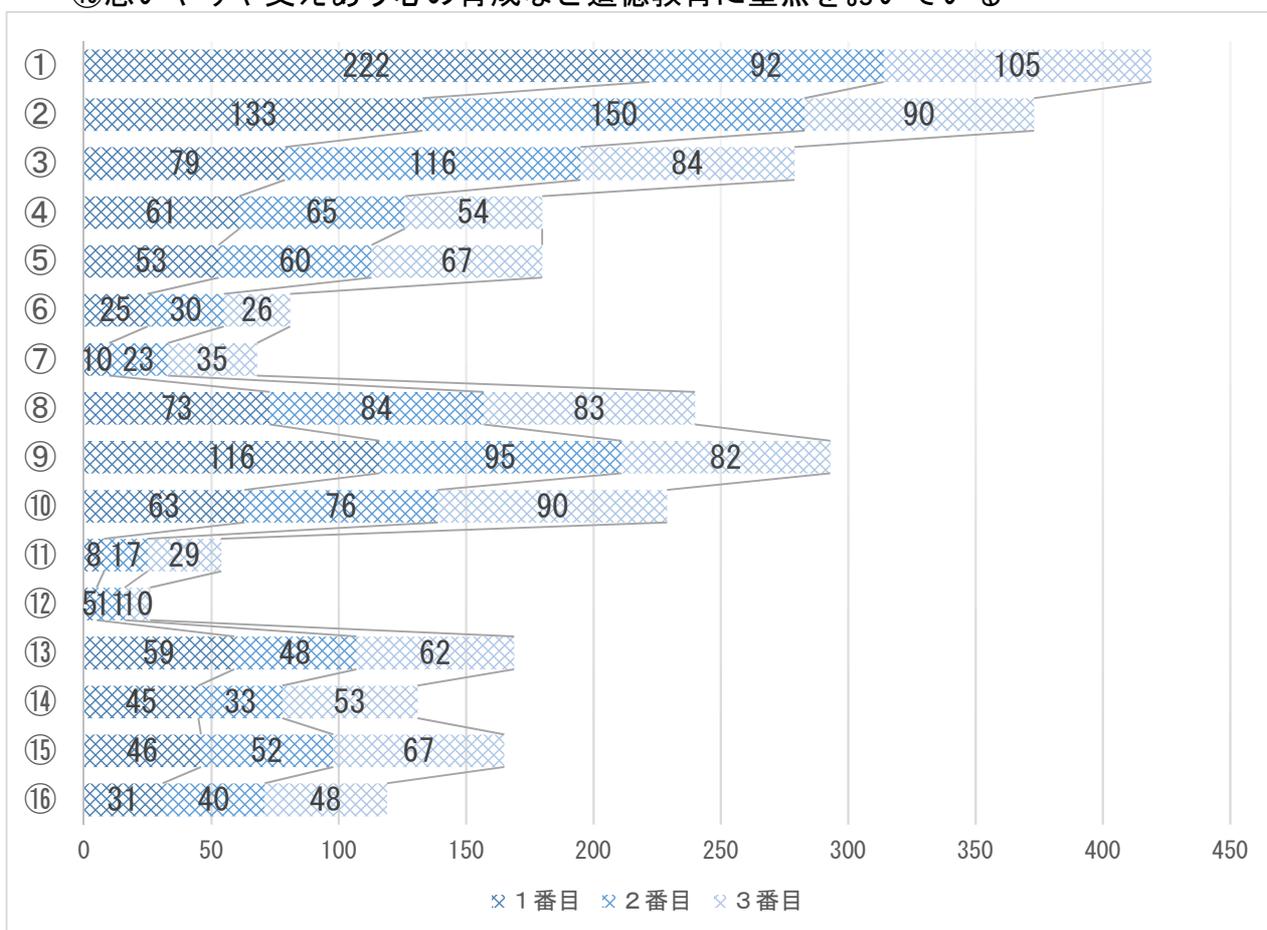


(2) 学校に求めるもの (ハード面・ソフト面)

Q1 これからの学校に望むことは何ですか。次の中から3つ選んでください。

※1番目から3番目まで、次の中から1つずつ選んでください。

- A
- ①通学距離が短い
  - ②学校がきれいである
  - ③エアコンなどの空調設備が整っている
  - ④校庭が広い
  - ⑤遊具などがいっぱいある
  - ⑥学校内がバリアフリー化されている (昇降口や、教室と廊下の境にだん差がないなど)
  - ⑦教育の変化に対応する建物となっている (可動式仕切りで自由に学習空間を区分できる学習室 など)
  - ⑧安心・安全である (防犯カメラが設置されている、施設の定期点検や修理が適切にされている など)
  - ⑨学校行事が充実している (運動会や体育祭、文化祭、音楽祭 など)
  - ⑩クラブ活動・部活動が活発である
  - ⑪地域の人とつながりがある (昔の遊びや文化を学べる など)
  - ⑫先生が新しい教育を指導できるよう研修に取り組んでいる
  - ⑬時代に合った教育を行っている (タブレット PC や大型ディスプレイなどの ICT を活用した教育、伝統・文化に関する教育 など)
  - ⑭自分の理解度に合わせた、きめ細かな学習指導をしてくれる
  - ⑮先生が、悩みや意見をじっくりと聞いたり、頑張っていることを認めてくれたりする
  - ⑯思いやりや支えあう心の育成など道徳教育に重点をおいている



### 3 小規模校区のアンケート結果

(1) 望ましい小・中学校1学年当たりの学級数(人数)

Q 1学年当たりで望ましいと思う学級数(児童・生徒数)についてお答えください。

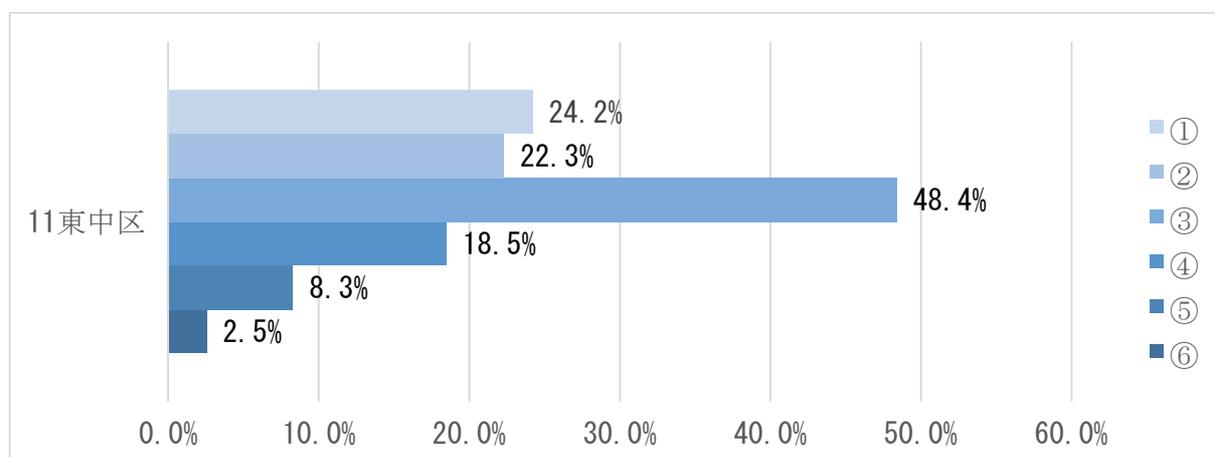
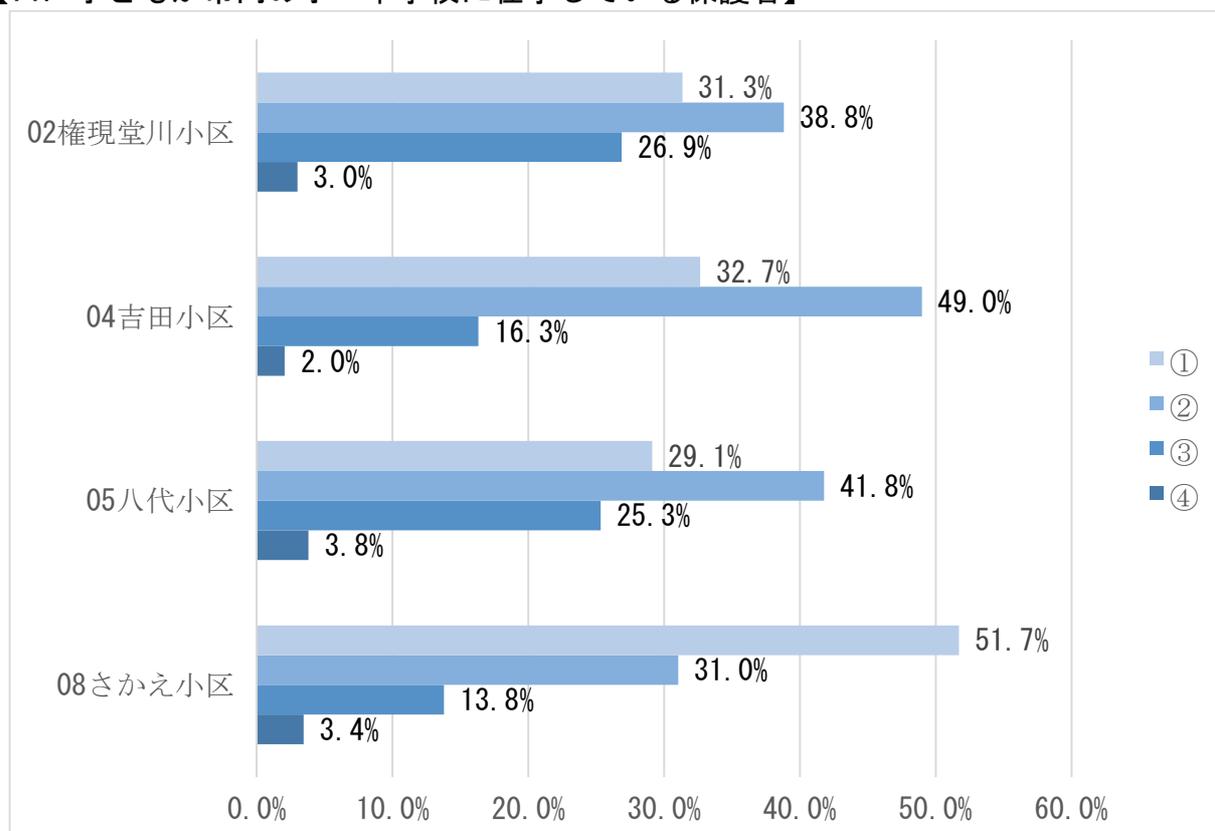
A 【小学校】

① 1学級(35人以下)、② 2学級(36人~70人以下)、③ 3学級(71人~105人以下)、④ 4学級以上(106人以上)

【中学校】

① 1学級(40人以下)、② 2学級(41人~80人以下)、③ 3学級(81人~120人以下)、④ 4学級(121人~160人以下)、⑤ 5学級(161人~200人以下)、⑥ 6学級以上(201人以上)

【A. 子どもが市内の小・中学校に在学している保護者】



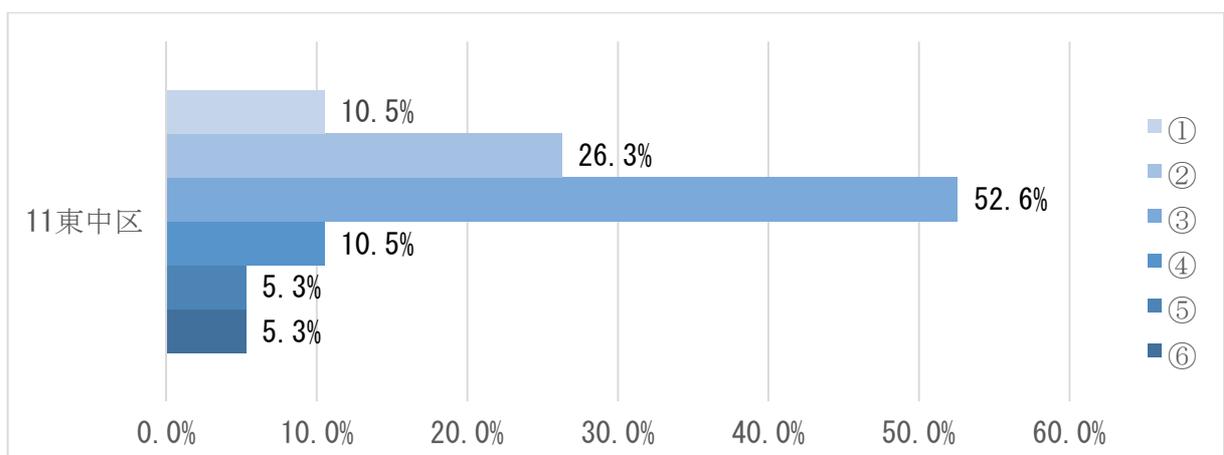
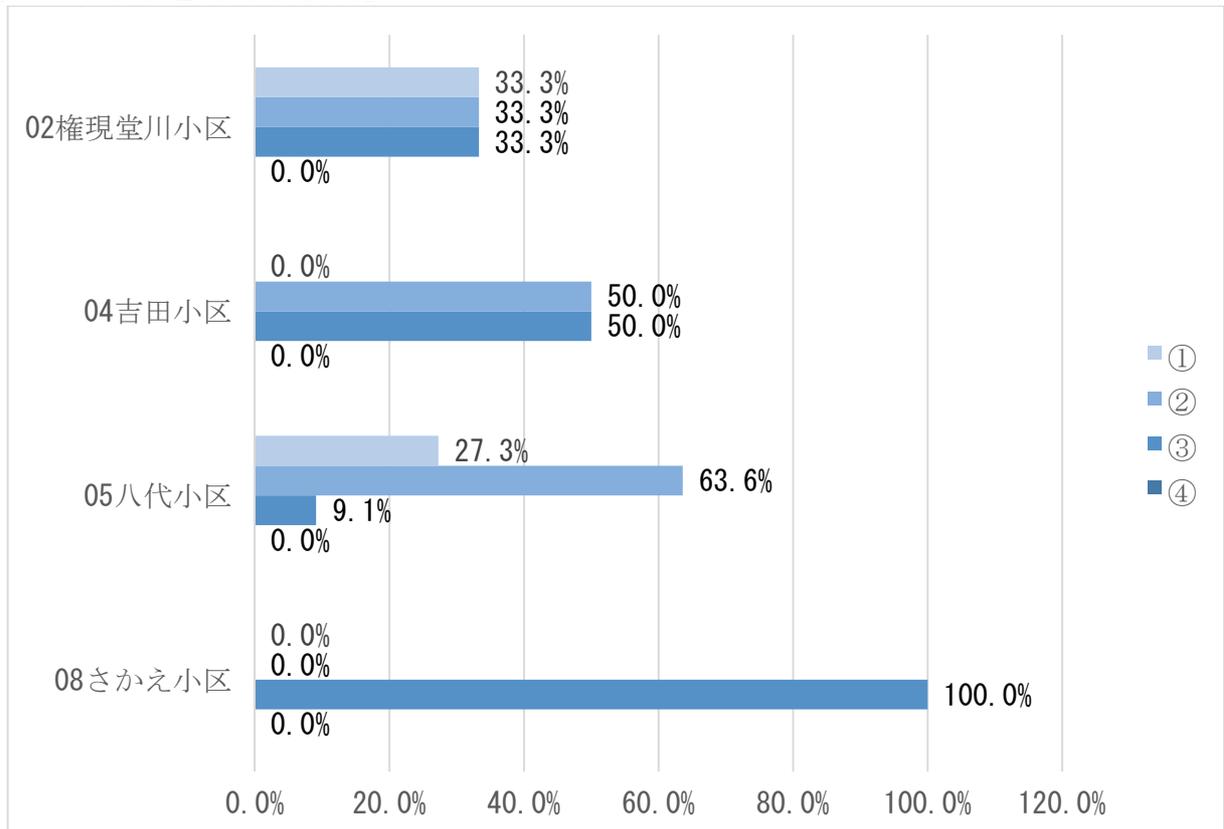
A 【小学校】

- ① 1学級（35人以下）、② 2学級（36人～70人以下）、③ 3学級（71人～105人以下）、④ 4学級以上（106人以上）

【中学校】

- ① 1学級（40人以下）、② 2学級（41人～80人以下）、③ 3学級（81人～120人以下）、④ 4学級（121人～160人以下）、⑤ 5学級（161人～200人以下）、⑥ 6学級以上（201人以上）

【B. 学校運営協議会委員】



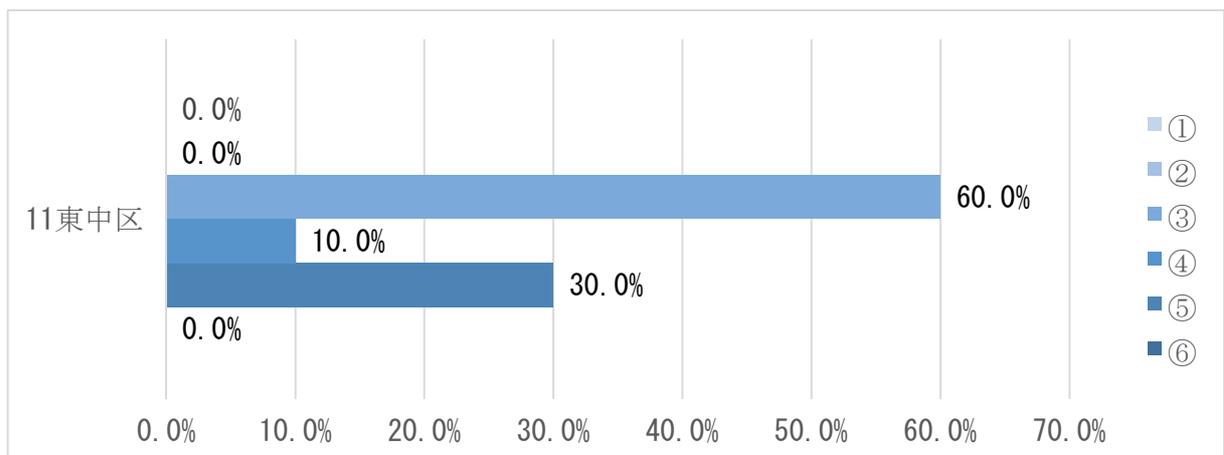
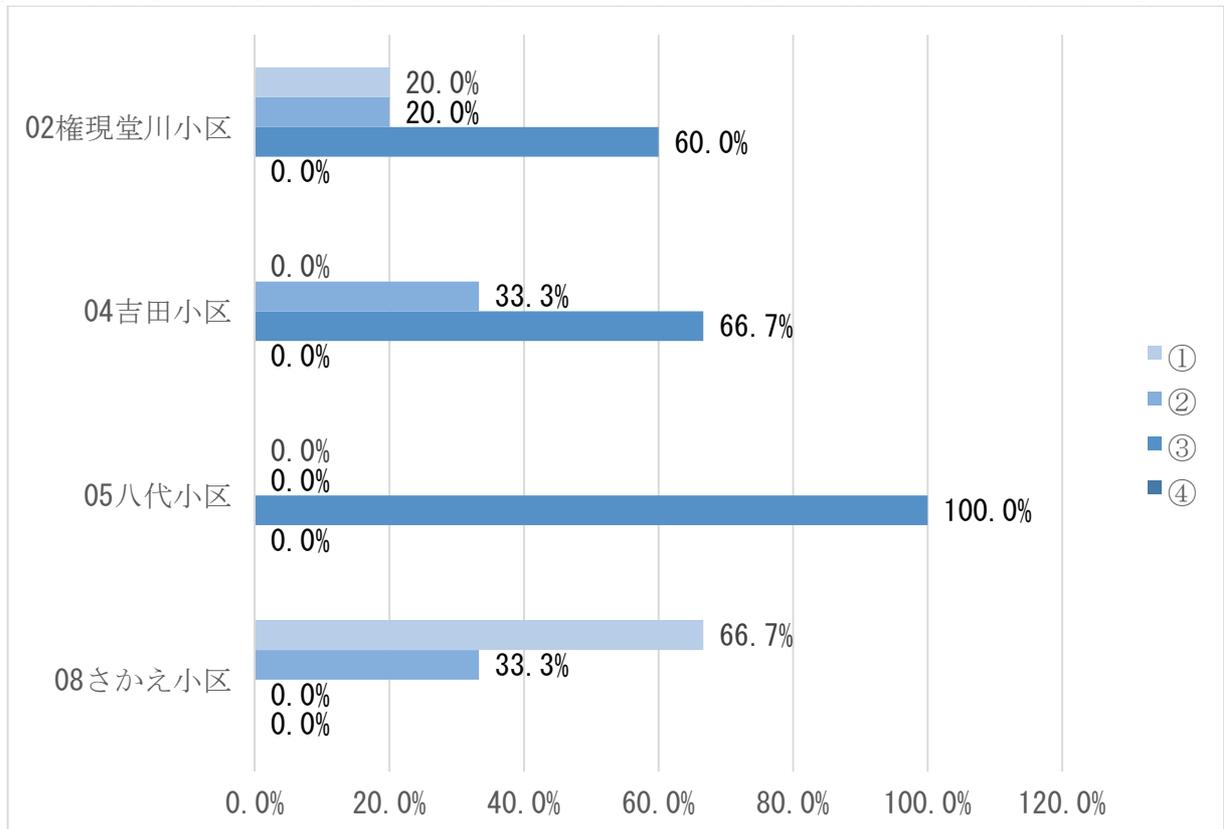
A 【小学校】

① 1学級（35人以下）、② 2学級（36人～70人以下）、③ 3学級（71人～105人以下）、④ 4学級以上（106人以上）

【中学校】

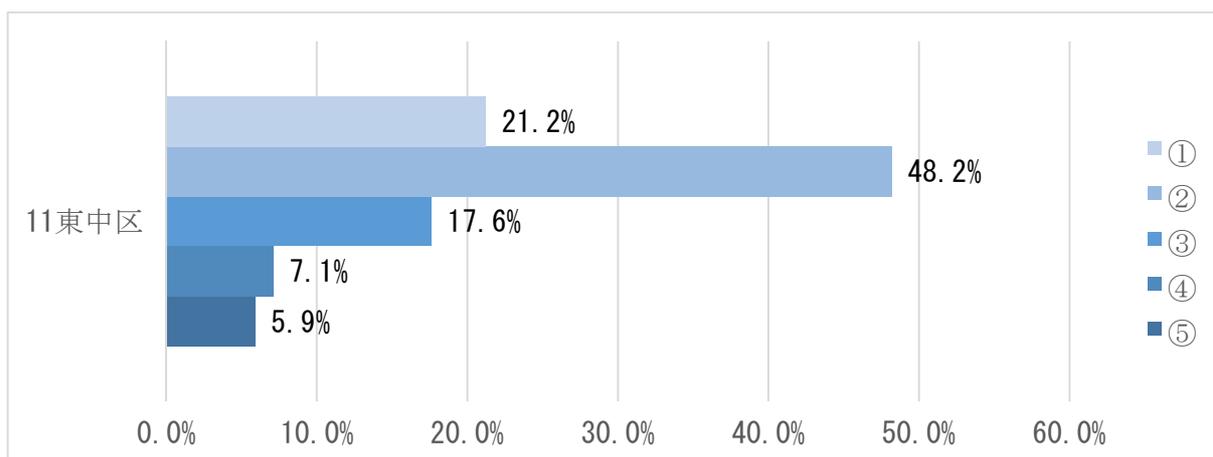
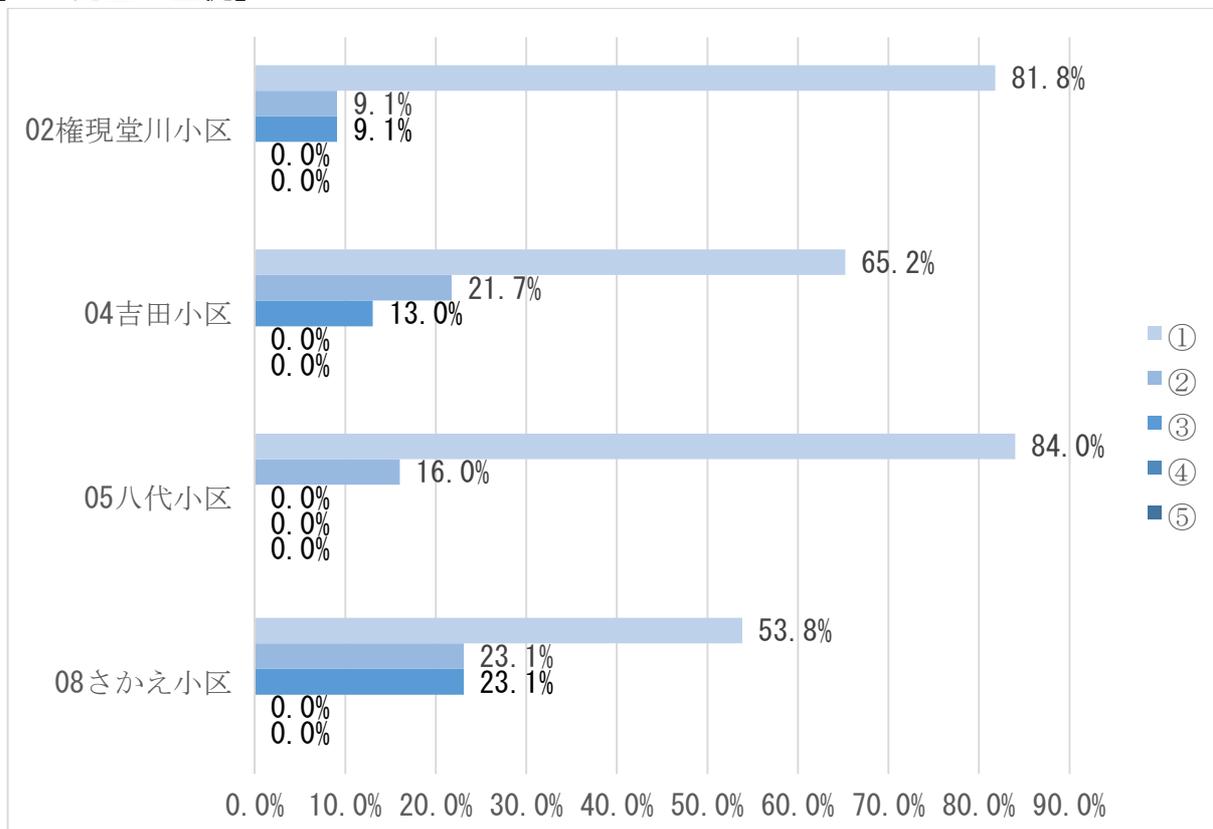
① 1学級（40人以下）、② 2学級（41人～80人以下）、③ 3学級（81人～120人以下）、④ 4学級（121人～160人以下）、⑤ 5学級（161人～200人以下）、⑥ 6学級以上（201人以上）

【C. 子どもが市内の幼稚園、保育園（保育所）に在園（在所）している保護者】



- A ① 1学級（小学校：35人以下、中学校40人以下）  
 ② 2学級（小学校：36人から70人以下、中学校：41人から80人以下）  
 ③ 3学級（小学校：71人から105人以下、中学校：81人から120人以下）  
 ④ 4学級（小学校：106人から140人以下、中学校：121人から160人以下）  
 ⑤ 5学級（小学校：141人以上、中学校161人以上）

【D. 児童・生徒】

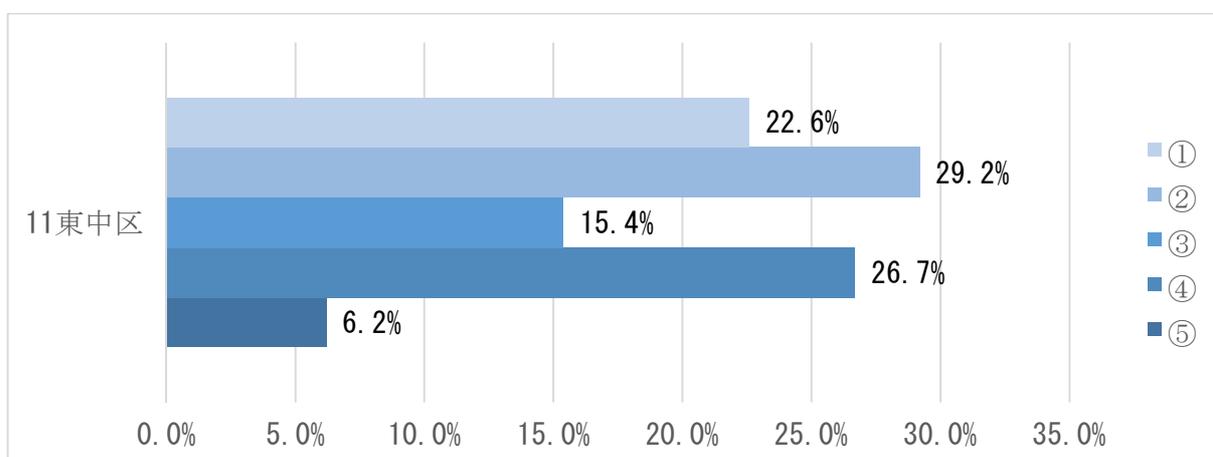
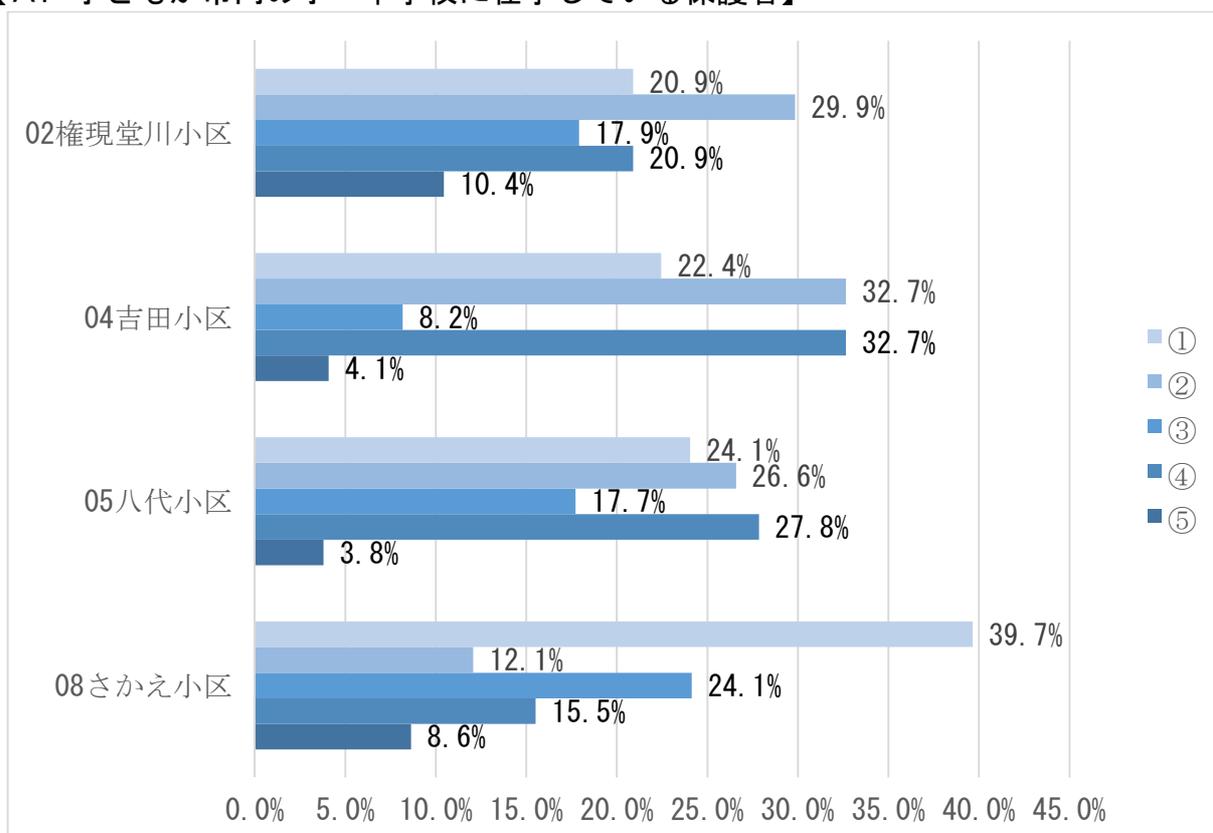


(2) 市内小・中学校全体の統廃合の賛否

Q 市内小・中学校全体の統廃合についてお答えください。

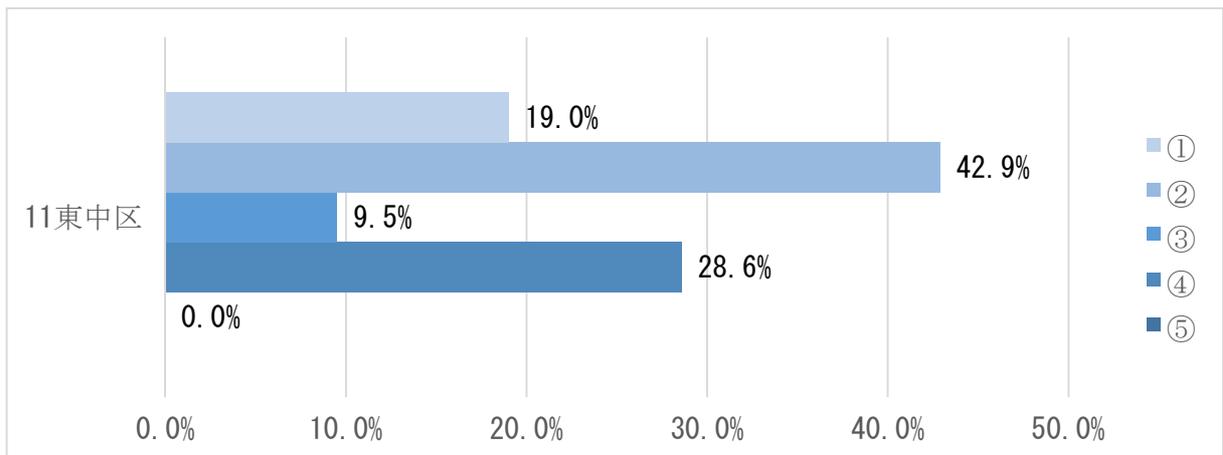
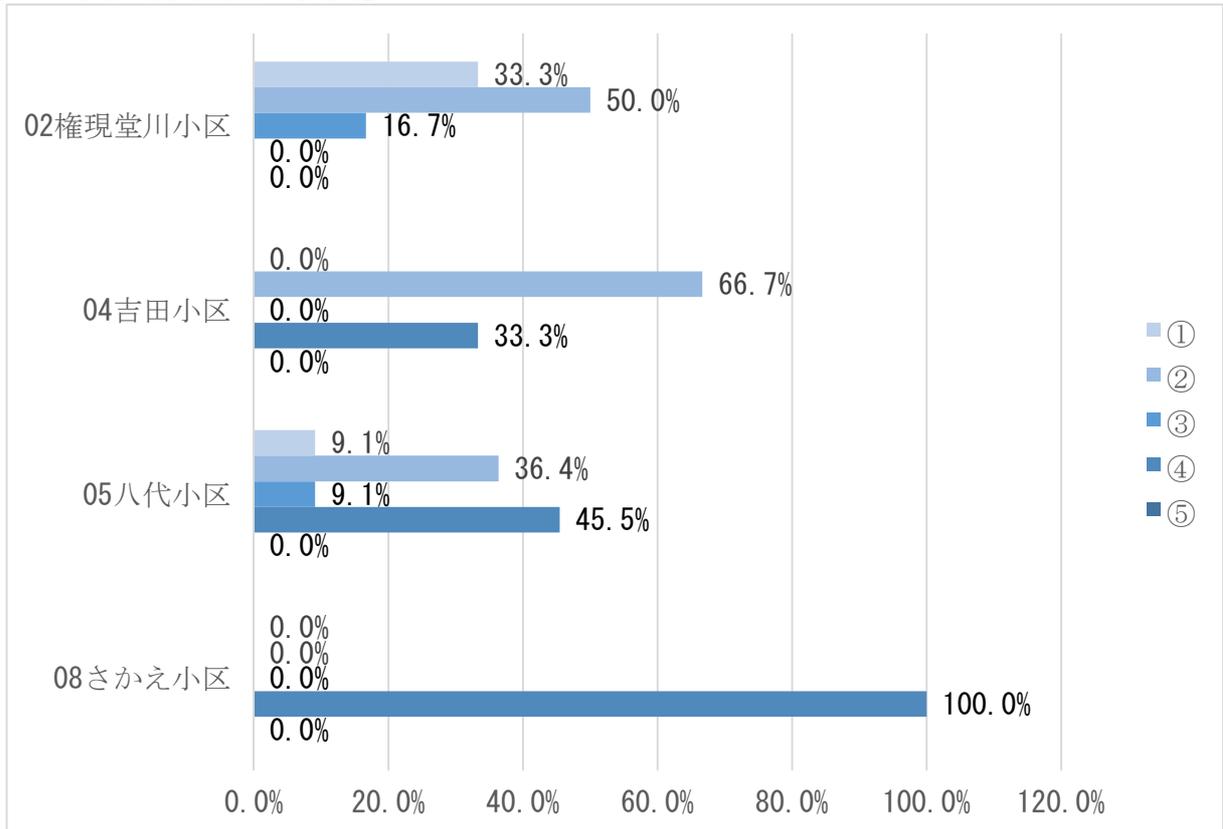
- A ①全ての小・中学校の再編を将来的には検討したほうがよい  
 ②全ての小・中学校の再編を早急に検討したほうがよい  
 ③小規模校の再編についてのみ、将来的には検討したほうがよい  
 ④小規模校の再編についてのみ、早急に検討したほうがよい  
 ⑤ 現行のままでよい

【A. 子どもが市内の小・中学校に在学している保護者】



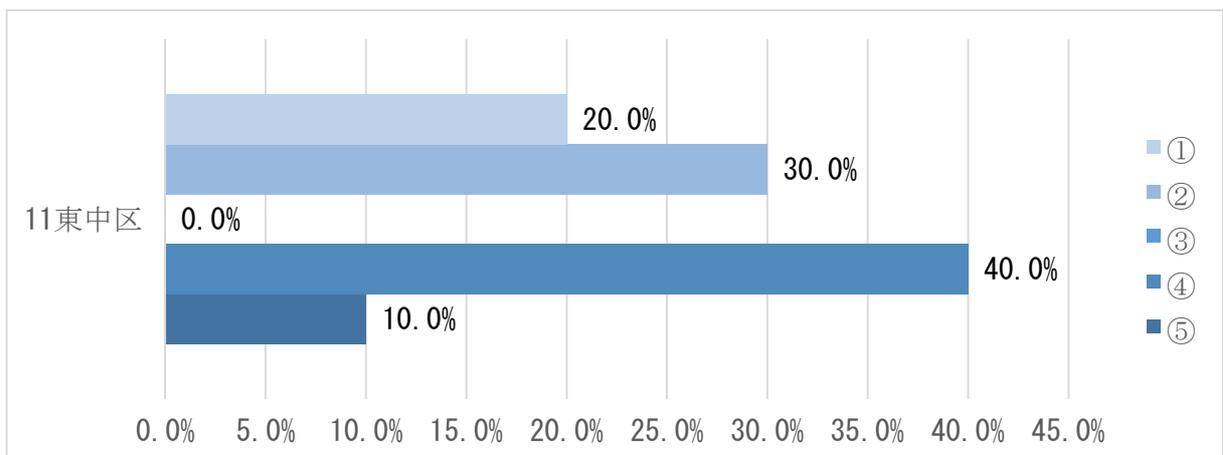
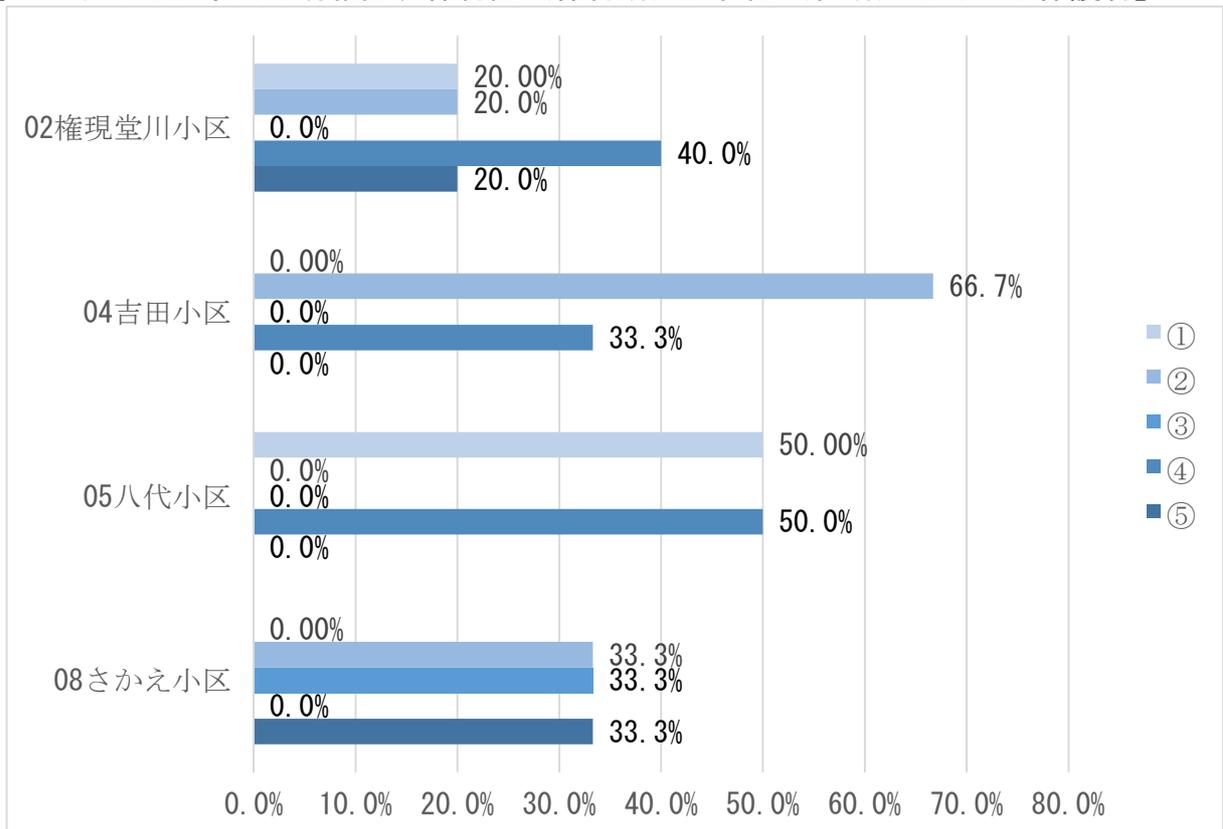
- A ①全ての小・中学校の再編を将来的には検討したほうがよい
- ②全ての小・中学校の再編を早急に検討したほうがよい
- ③小規模校の再編についてのみ、将来的には検討したほうがよい
- ④小規模校の再編についてのみ、早急に検討したほうがよい
- ⑤ 現行のままでよい

【B. 学校運営協議会委員】

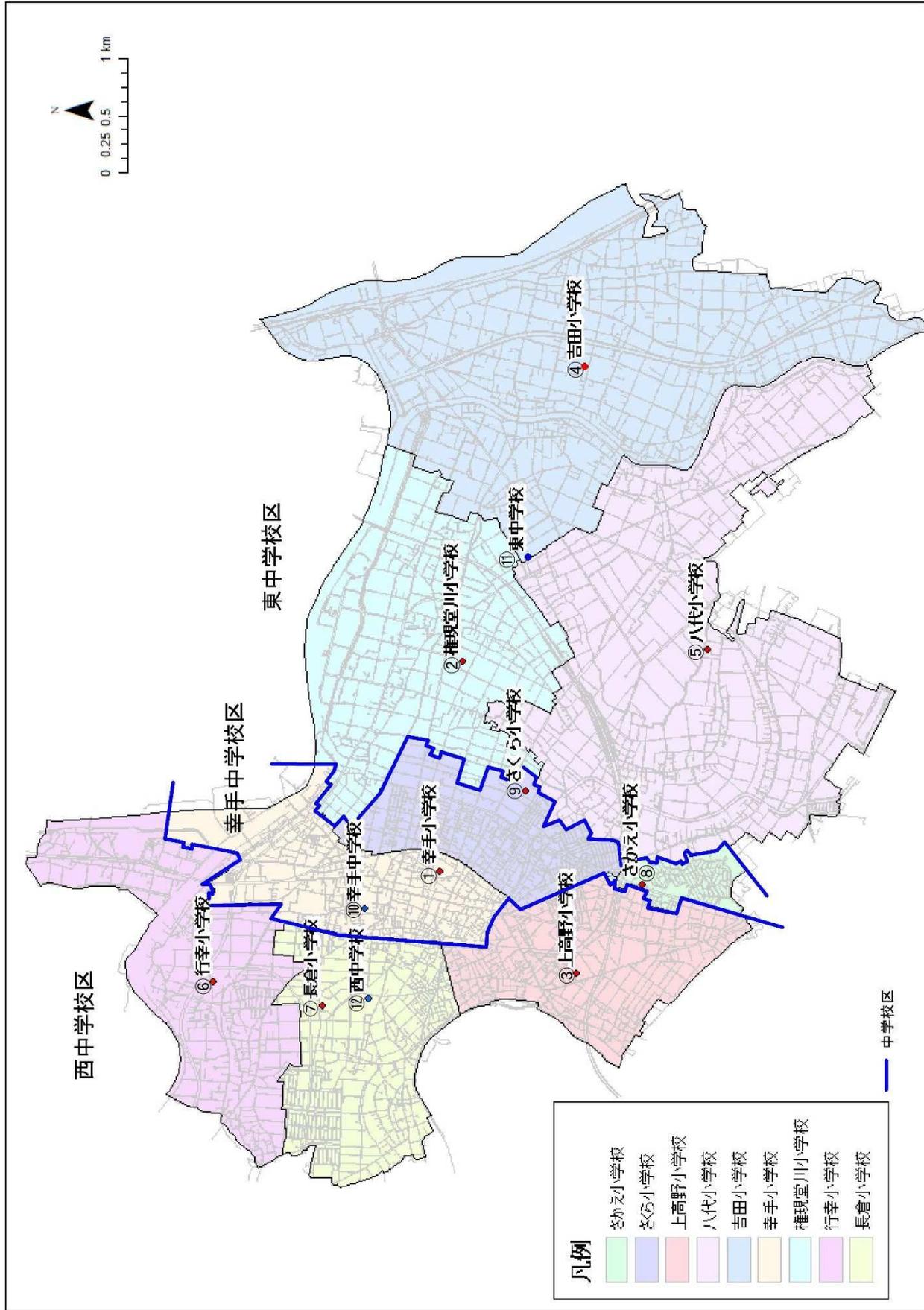


- A ①全ての小・中学校の再編を将来的には検討したほうがよい  
 ②全ての小・中学校の再編を早急に検討したほうがよい  
 ③小規模校の再編についてのみ、将来的には検討したほうがよい  
 ④小規模校の再編についてのみ、早急に検討したほうがよい  
 ⑤ 現行のままでよい

【C. 子どもが市内の幼稚園、保育園（保育所）に在園（在所）している保護者】



【幸手市内の小・中学校の位置図】



学校の在り方に関するアンケート調査報告書

令和5年3月発行

編集・発行／幸手市教育委員会

〒340-0192 埼玉県幸手市東4丁目6番8号

TEL 0480-43-1111 FAX 0480-43-3188

<https://www.city.satte.lg.jp/>